「四国　縦Ｖ横一（ブイいち）　登山へんろ」

［松陰・六部・童財善子］もどき

～スルーハイク・ドキュメンタリー～

実施結果 貫（完）歩（かんぽ）記録

2019(令和元)年10月14日(月)～11月6日(水)

大香（だいこう）ブランド老魂（ろうこん）サブタイトルは、

「　冠カップ・メトロノーム作造大作戦　」

（大　沼　香（かおる））

本書は、実地踏査中の歩いている時に浮かんで来た諸々の雑念を少し整理して、自分の中のもう一人の自分（影）に対する報告書、自家撞着問答集です、遊び心をランダムに並べて書いたものです。あの世に持って行く自分史の一端です。

・・・

この間における様々な出来事は山ほどありますが、本書は要点を記述したものです。また、本書中の国土地理院地形図を切り取った図の中の赤色、あるいは紫色の実線（太い実線）は、私が歩行持参（携行）したＧＰＳ機の軌跡（GPS トラックログ）です。

・・・

なお、誤字脱字や日本語文法上の間違いが多数あるはずです、本書は世に問うもの、広く配布するものではないので、考え方や過ちを指摘されても、批評・批判されても浅学菲才の私にとって、如何ともし難く詮無いことです、性格（性質）の投影故にこれを以って私の限界です。

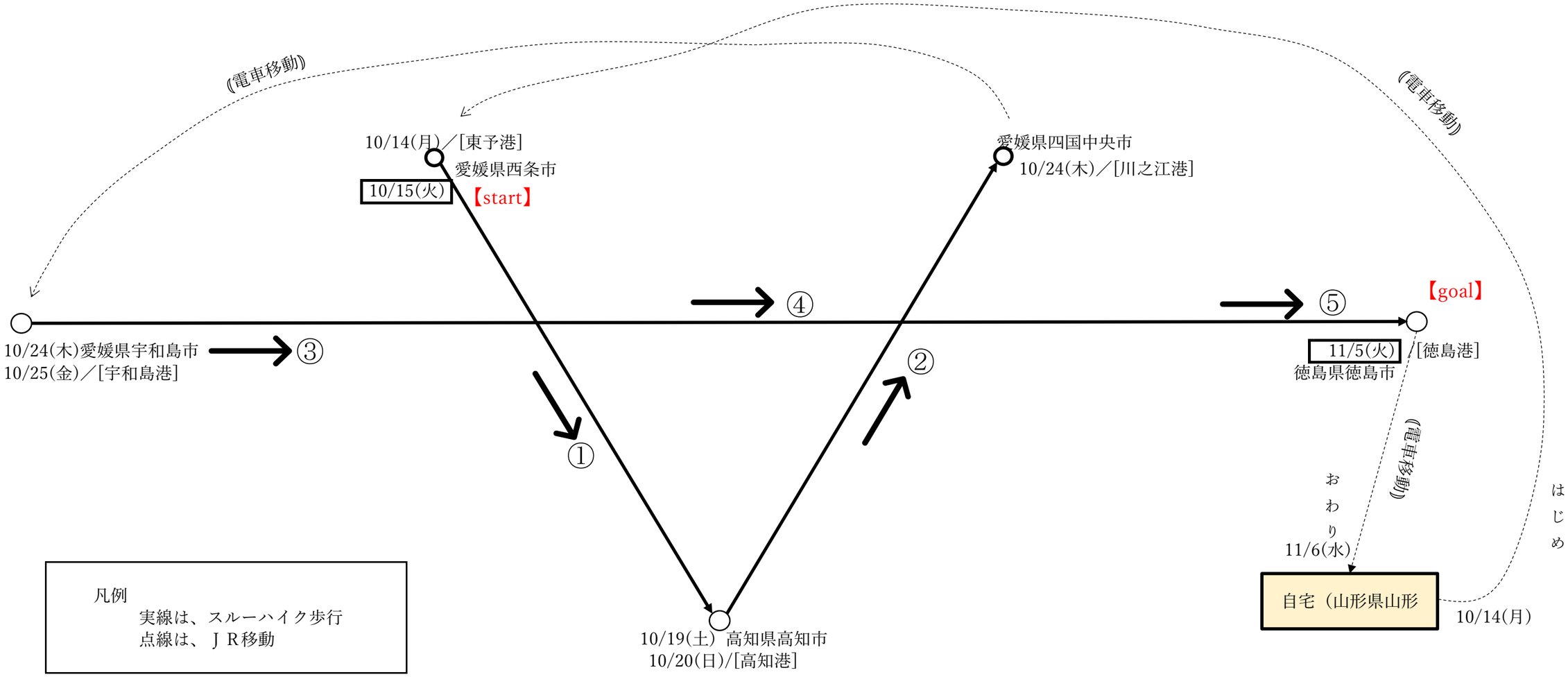
可笑（おか）しな処に気付いた場合は、読み手のお方が、その聡明な頭脳を以って、自由に解釈して貰えればいいし、想像力と創造力を逞しく発揮し、ご自分の世界へ反映して貰えればそれで結構でございます。

２０１９（令和元）年「四国　縦Ｖ(たてブイ)横一(よこいち)　登山へんろ」実施結果
全体行程構図

◎　縦Ｖ　　正味１０月１５日（火）～１０月２４日（木）の１０日間　　純歩行距離２４４ｋｍ

◎　横一　　正味１０月２５日（金）～１１月　５日（火）の１２日間　　純歩行距離３３６ｋｍ

計　　歩行正味　２１連泊２２日間／累積歩行距離５８０ｋｍ



実際に歩行踏査したGPS軌跡図

図中の赤色実線（太い線）は、ガーミン社の「オレゴン６５０」に自動記録されたＧＰＳ軌跡（緯度・経度&タイムの自動電子スタンプ機能）です。

全ての移動軌跡を記録したので、細部を確認すると、全てを歩いたという事と、立ち寄り場所が判明し、全道歩き貫（完）歩の客観的な科学的・デジタル証拠を保持している事になっています。

２０１９（令和元）年「四国　縦Ｖ横一　登山へんろ」の全行程集計表

＜　携行したガーミン社ＧＰＳ機の「オレゴン６５０」の自動記録（データログ）と「カシミール３Ｄ（フリーソフト）」により集計　＞

2019　　Ｎｏ１

累積日数	行動月日 月日	行動月日 曜日	歩行区間 主要な通過地点名・始終点	実歩行距離 km	歩行時間 開始時:分	歩行時間 終了時:分	歩行時間 時間時間:分	平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先 所在地	宿泊先 名称
(前行程)	10月14日	(月)	自宅から伊予西条駅まで列車（新幹線＆特急）移動 東予港に移動し、海水を汲み上げる	---					曇り	[東予港（海水１)]	愛媛県西条市	ホテル オレール 西条
以下、本番												
１日目	10月15日	(火)	伊予西条駅→石鎚神社口の宮（本社）→黒瀬峠→ 堅原→河口→下谷→（宿）	25.9	7:18	14:08	6°:50'	3.8	曇り 霧雨	【Start】 一時、雨具着用	愛媛県西条市	石鎚京屋観光旅館
２日目	10月16日	(水)	（前終点）→西之川→石鎚神社成就社→八丁坂→ 夜明峠→二の鎖元小屋分岐→土小屋分岐→南尖峰→ [石鎚山頂（天狗岳）]→石鎚神社頂上社→（宿）	10.4	8:29	15:05	6°:36'	1.6	快晴	石鎚山登頂	愛媛県西条市	石鎚神社頂上山荘
３日目	10月17日	(木)	（前終点）→土小屋→よさこい峠→シラサ峠→ 寺川→越裏門→（宿）	21.2	8:10	15:03	6°:53'	3.1	曇り		高知県吾川郡いの町	農泊 柊 ーひいらぎー
４日目	10月18日	(金)	（前終点）→長沢→安望→葛川←思地→上八川→（宿）	31.6	8:00	15:30	7°:30'	4.2	小雨	一日中雨具着用	高知県吾川郡いの町	農泊　みのりの舎
５日目	10月19日	(土)	（前終点）→連行→山道(廃道)→鏡吉原→貞永→ 塚ノ原→高知市街（県庁、高知城）→（宿）	33.3	6:26	15:33	9°:07'	3.7	雨れ 曇り	一日中雨具着用	高知県高知市	リバーサイドホテル松栄
６日目	10月20日	(日)	（前終点）→高知港→はりまや橋→曙大橋→ 岡豊(おこう)城跡→植野→（宿）	30.7	6:57	15:10	8°:13'	3.7	晴れ	[高知港（海水２)]	高知県南国市	福留旅館
７日目	10月21日	(月)	（前終点）→亀岩→釣瓶→［旧街道（権若峠）］→両国 橋→赤荒谷橋→［旧街道（国見峠）］→吉延→ 本山町本山→（宿）	24.9	6:19	15:15	8°:56'	2.8	曇り 霧雨	旧土佐北街道の前半部	高知県長岡郡本山町	旅館 高知屋
８日目	10月22日	(火)	（前終点）→本山東大橋→奈路→川口→尾生→ 穴内→（宿）	18.6	8:18	12:34	4°:16'	4.4	晴れ		高知県長岡郡大豊町	宿屋 川かぜ
９日目	10月23日	(水)	（前終点）→川口→一の瀬→立川（刈屋）→［旧街道 （土砂大崩落地）］→［旧街道（笹ケ峰峠）→（笠取 峠）→（腹包丁）］→堂成→（宿）	25.8	6:25	14:15	7°:50'	3.3	晴れ	旧土佐北街道の後半部(1)	愛媛県四国中央市 新宮町	霧の森コテージ
１０日目	10月24日	(木)	（前終点）→長瀬→新宮→［旧街道（堀切峠）］→ 平山→新町→四国中央市川之江→川之江港→ ＪＲ川之江駅→（ＪＲ列車）→ＪＲ宇和島駅→ 宇和島寿町→(宿)	21.5	6:35	16:12	6°:03'	3.6	雨	旧土佐北街道の後半部(2) 一日中雨具着用 ＪＲ列車移動分は除外 [川之江港（海水３)]	愛媛県宇和島市	ビジネスホテル寿

以上は【　縦Ｖ　軌跡作図行程　244km（初日から10日目までの前半）】

2019　以下は【　横一　軌跡作図行程　３３６km（11日目以降最終日までの後半）

１１日目 (1)	10月25日	（金）	（前終点）→宇和島港→須賀川ダム→水分→出目→ 川崎→（宿）	26.6	7:18	14:30	7°　:12'	3.7	晴れ	［宇和島港（海水４）］	愛媛県北宇和郡 鬼北町	オンアンドオフ
１２日目 (2)	10月26日	（土）	（前終点）→川上→下鍵山→境→川口→梼原→（宿）	28.4	8:33	15:22	6°　:49'	4.2	晴れ		高知県高岡郡梼原町	民宿　花の家
１３日目 (3)	10月27日	（日）	（前終点）→井ノ谷→［カルスト台地（五段高原→天狗 高原）］→黒滝山→大引割→松原→岩屋→ 別枝大橋→（宿）	36.3	6:28	16:54	10°　:26'	3.5	快晴	カルスト台地・大引割	愛媛県上浮穴郡 久万高原町	民宿　てっぺん（天辺）
１４日目 (4)	10月28日	（月）	（前終点）→大渡→川口→田村→土居→（宿）	24.0	8:10	14:25	6°　:15'	3.8	快晴		高知県吾川郡 仁淀川町	民宿 いち川
１５日目 (5)	10月29日	（火）	（前終点）→新大峠トンネル→小川新別→樫山→ 土居→上八川→（宿）	23.5	9:45	15:20	5°　:35'	4.2	快晴		高知県吾川郡いの町	農泊　みのりの舎
１６日目 (6)	10月30日	（水）	（前終点）→小申田→東石原→土佐町土居→ 本山→（宿）	28.1	7:37	14:36	6°　:59'	4.0	快晴		高知県長岡郡本山町	旅館 高知屋
１７日目 (7)	10月31日	（木）	（前終点）→本山東大橋→奈路→川口→尾生→黒石 →西土居→粟生→（宿）	26.0	8:08	15:15	7°　:07'	3.7	快晴		高知県長岡郡大豊町	星空の宿　てるはち
１８日目 (8)	11月1日	（金）	（前終点）→瀬長→京柱峠→東祖谷小川→ 東祖谷若林→京上→（宿）	31.4	7:00	14:50	7°　:50'	4.0	快晴		徳島県三好市東祖谷	旅の宿 奥祖谷
１９日目 (9)	11月2日	（土）	（前終点）→蔓原→菅生→見の越→剱神社→ 剱山本宮宝蔵石神社→［剣山頂］→大剱神社→（宿）	31.9	6:23	15:18	8°　:55'	3.6	快晴	剣山登頂	徳島県三好市東祖谷	民宿　平家の宿
２０日目 (10)	11月3日	（日）	（前終点）→垢離取(コリトリ)→木屋平→（宿）	25.9	8:05	14:41	6°　:36'	3.9	晴れ		徳島県美馬市木屋平	つるぎの湯大桜
２１日目 (11)	11月4日	（月）	（前終点）→山道(廃道)→川井隧道→本根川→ 川又→左右山→神山温泉→（宿）	22.0	8:18	14:37	6°　:19'	3.5	晴れ		徳島県名西郡神山町	神山温泉ホテル四季の里
２２日目 (12)	11月5日	（火）	（前終点）→新府能トンネル→佐那河内村寺谷→ 方上町→三軒屋町→徳島港→徳島市街→（宿）	31.4	7:07	15:15	8°　:08'	3.9	快晴	［徳島港（海水５）］ 【Goal】	徳島県徳島市一番町	ホテルアストリア
(後行程)	11月6日	（水）	徳島駅から自宅へ鉄道利用による移動・・・帰宅	---	―――				快晴		山形県山形市	[自宅]

実施結果の総括評価

総歩行距離	580.0	km
１日当り歩行最長距離	36.3	km
１日当り歩行最長時間	10°　:26'	時間:分

１日平均歩行距離	26.3	km
１日平均歩行時間	7°　:17'	時間:分
１日平均歩行時速	3.6	km/h

（注１）歩行距離は、傾斜を加味した実歩沿面距離である。
（注２）歩行時間には、休憩やコンビニ立ち寄りなどを含む。
（注３）基点から基点までの目標ルート上は全道歩いた。
　　同ルート上に歩かない空白区間は無い。

Ⅰ＿「四国縦Ⅴ横一登山へんろ」の計画について

１.直接的事情

（１）そもそものキッカケ

1949(昭和 24)年 6 月生まれの私は、本年 2019（令和元年）6 月を以って満 70 歳を過ぎ、元号が変わった節目の年に古希を迎えました。遡れば 60 歳の定年退職を吾が人生の節目とし、翌年の 61 歳から歴史街道の歩き旅を始めてから、本年は 10 年目の大きな節目となりました。本年春には「西国三十三所観音霊場徒歩順（巡）礼スルーハイク」（別に報告書あり）を完遂しました。これでも物足りなく、節目の締めをどうするのか、どこに行くのか行かないのか、と思案する中で浮かんだのは、この度の 4 度目の四国行きでした。なぜなのか、その理由は次のとおりです。

そもそも、今回の四国行きを思い立った理由はなぜなのか？　4 つの思い残し（以下「四つのターゲット」という）がありました。いずれも登山相当の急坂があります。

Ⓐ1 つ目は、四国で一番高く修験の御山である「石鎚山――標高 1,982m は四国・西日本 1 位の高さ、最高峰は天狗岳」に登拝したかったこと、と合わせて民俗学者宮本常一（つねいち）さんの本に出てくる寺川・越裏門（高知県）に踏み入れたかったこと。

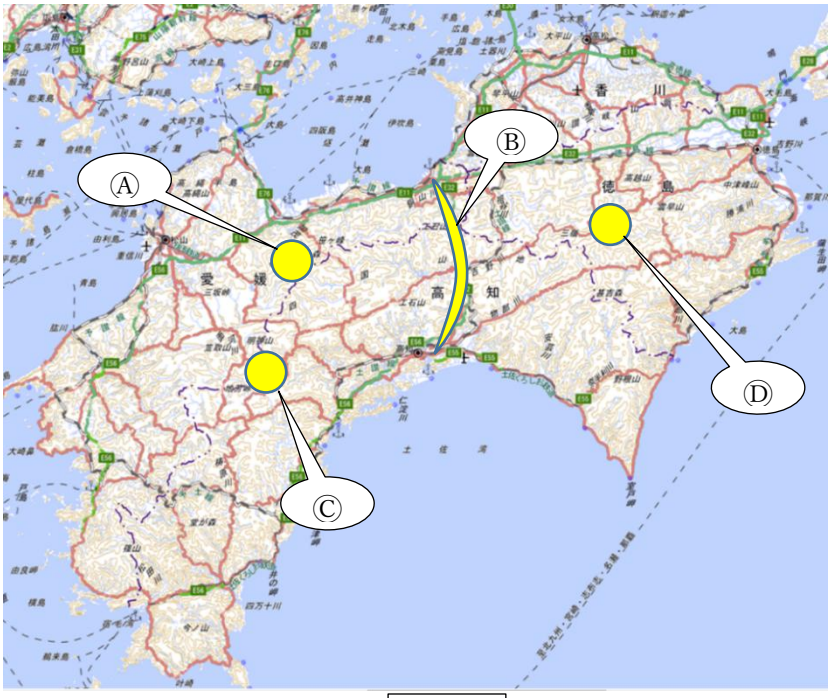
Ⓑ2 つ目は、江戸時代は高知土佐藩の歴代藩主(山内家)の参勤交代道であった「旧土佐北街道（参勤交代北山道）――最高点は笹ケ峰 1,016m」を踏査して見たかったこと。

Ⓒ3 つ目は、標高 1,400m 前後の天空エリア、「四国カルスト台地――五段高原、最高点は天狗高原 1,485m、山口県の秋吉台・福岡県の平尾台に並ぶ日本三大カルストの一つ」に行って見たかったこと。

Ⓓ4 つ目は、前記石鎚山と並ぶ修験の御山「剣山（つるぎさん）――標高 1,955m は四国・西日本 2 位の高さ」に登拝したかったこと。

特に石鎚山と剣山には、3 回の徒歩へんろでチャンスを覗っていたが、天候不順のために断念していたものです。

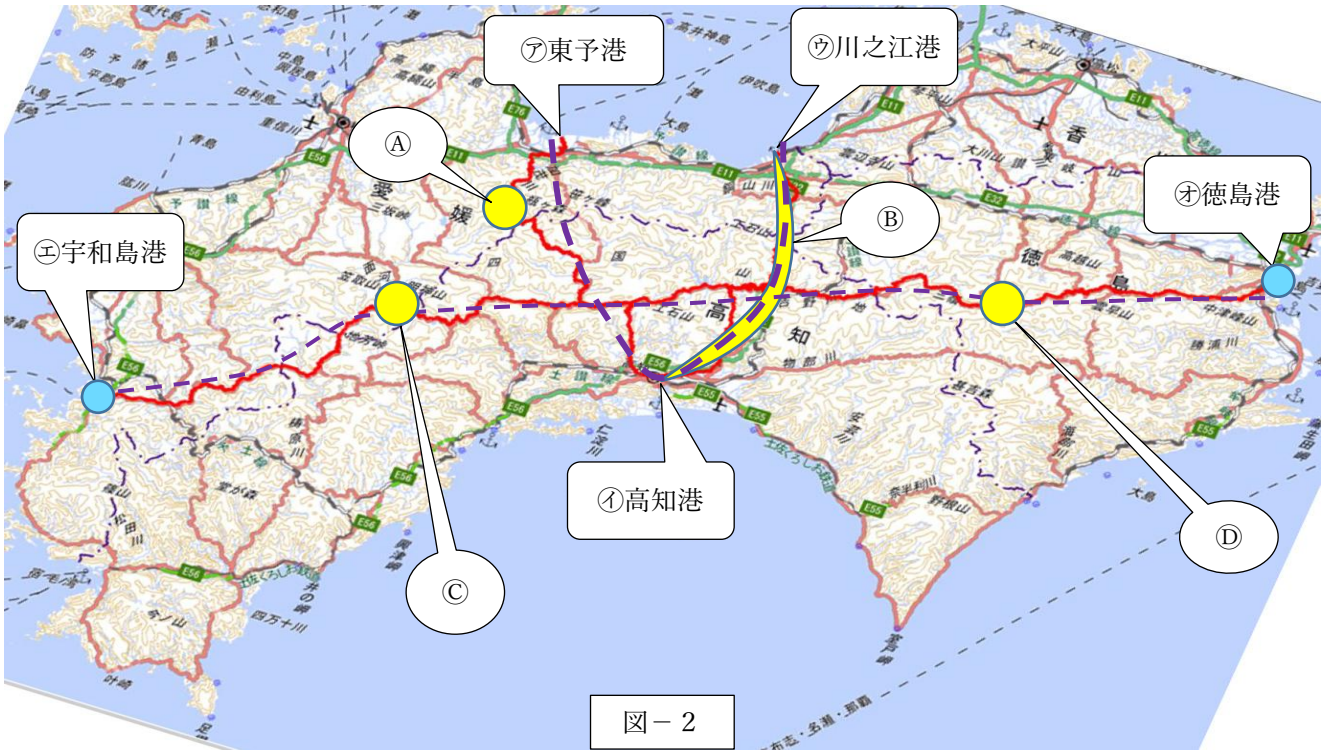
四国の西にかけて、四つのターゲット（私的戦略目標）を設定し、『縦V（たてブイ）』ルートではⒶ石鎚山とⒷ旧土佐北街道の 2 ポイント、『横一（よこいち）』ルートではⒸカルスト台地とⒹ剣山の 2 ポイントに挑むことにしました。前記四つのターゲット・ポイントは、図－1 に示したとおりの 4 個所であります。



図－１

（２）計画ルートの設定

最終的には図－2（赤い実線）のとおりに設定しました。Ⓐ石鎚山、Ⓓ剣山への登拝ルートについては、昭文社の「山と高原地図　54」に登山道は詳しく掲載されていることからこれを参考にした。Ⓑ旧土佐北街道については、高知県教育委員会および四国中央市教育委員会からルート掲載資料を事前に取り寄せてこれを参考にした。Ⓒカルスト台地へのルートについては、国土地理院地形図の登山道を参考に自主決定しました。



図－２

（３）本計画の正式呼称

「四国　縦Ｖ横一（たてブイよこいち）　登山へんろ」としました、その理由は以下のとおりです。

この度のスルーハイク歩き旅――基点（起点）から基点（起点）まで連日歩き通し、そのルート上に歩かない空白区間を生じさせないこと、携帯用 GPS 機は必需――を計画中、前記心残りのターゲットを四国地図上にプロットしている中で、これらを結ぶ GPS 軌跡(足跡)を重ねて面白い取り組みが浮かんで来ました。

Ⓐ石鎚山とⒷ旧土佐北街道からは高知を中間基点とした『縦Ｖ（たてブイ）』の図柄が、Ⓒカルスト台地とⒹ剣山からは西の宇和島と東の徳島を結ぶ『横一（よこいち）（直線)』の単純な図柄が浮かび、それらを繋ぎ歩き通すことにより GPS 軌跡を以って「縦Ｖ横一」を描くことにしました。

今回の歩き旅計画の対象は、寺院・霊場参拝ではなく、登山を中核に据え「登山へんろ」と銘打って行うことにしました。「登山」についてですが、ここ 5 年間は 1,000m 前後の里山を年に数回は登っていますが 2,000m 級は行っていません。

（４）力水（ちからみず）（聖水）

ａ.アプローチ

2010(H22)年 61 歳から始めた歴史街道スルーハイク遊学紀行においては、遊び心として「①大香（だいこう）ブランド老魂（ろうこん）サブタイトル」を設定することと、「②何かの縁起物・呪物（じゅぶつ）」を持参して来ました、今回の縁起物はやはり『水（真水×潮水)』が閃きました。その事由は次のとおりです。

- 気合を込め頑張ろうとする私の体重の 55%ほどは体液中の水です、生きて歩き旅の途中でも、死ぬ時も水を欲しがります、最愛の亡父は逝く直前“水をくれ！”と言いました。
- 「水」を背負い繋ぐという過去の体験例があり、男と女の関係を重ねているからです。「神道の神秘」（山蔭基央著）の本の中に「川は淡水（真水）で男性象徴であり、海は海水で女性象徴である。その二つが交わる河口は、男女交合のシンボルである」と記載（前後のストーリーから記紀にあるのか。）されています。男女という両極の併存こそが調和のシンボルとなります。

・　老子は「上善は水の如し」という、四角い器に水を入れれば水も四角い形になり、丸い器に水を入れれば水も円形になります。また、水は相手を選ばず万物の成長を援けます、相手を選り好みするような無用な争いはしません。人間は低い所を蔑(さげす)んで嫌がりますが、低い所、より低い所を目掛けて進んで行きます、低い所に溜まります、貯まった水は人間・自然界の用水として供します。

それらの意を汲み、途中で真水に潮水（海水）を混合し、精神の金剛化の願望を込めて取り組むこととしました。

ｂ.今回の取り組み

今回は、前記図－2 を眺めている時、これまでの歩き旅の恒例となった吾が地元の真水を背負うことに加えて、以下のことが浮かんで来ました。

①　基点となる 5 個所の港において、潮水（海水）を汲み取り混合すること。

②　その海面とは、海抜ゼロメートル地点であり、いわば心のリセットを図ること。

『縦Ｖ(たてブイ)』の基点とする瀬戸内海側においては、スタート地点東予港とゴール地点川之江港で、また、中間地点となる太平洋側の高知港と、そして、『横一(よこいち)』の基点とするスタート地点宇和島港とゴール地点徳島港において適うことの計画を立てました。

真水と海水（潮水・塩水）の混合と、それらの携行は、私にとって、その混合は体内にある 0.9%生理的食塩水の製造に相当し、気力・奮発力の一つのトリガー（引き金、触媒）になるように意を込めました。

２.精神的事情

（１）この歳に当たって

さて、長寿の時代、厚生労働省最新情報に依ると、平均寿命――0 歳時（出生時）における平均余命のことであり、調査年に亡くなった人の平均年齢ではない。――は、男は 81.09 歳です。70 歳における余命補正を行うと男性 85.73 歳です、さらに健康寿命の余命補正では 76.78 歳となります。男性をみると 81.09 歳、85.73 歳、76.78 歳の 3 つの数字が出て来たが、私の実態を想定すると、健康的には 80 歳くらいが限度、後は儲けものと思っています。この後 10 年くらい、80 歳くらいまでは自主独鈷(どっこ)の生活、自立した活動を展開して行きたいと思っています。

返って、今年の 70 歳は大きな節目であると改めて認識すると、切実さが迫って来ます。そして、これまでの“心・言・行”、つまり「心（認識や精神）・言（言葉や言語）・行（行動や活動）」は、どこか偏っている、どこか部分的である、どこか不自由であるとの思いがあります。心の奥底に暗躍する呪縛を断ち切る方法はないものかと他力依存的な弱音を吐いています。このような思いを打破するには如何にすべきか、という処です。

図－３

（２）老木に花あれ

自宅のお隣佐藤和夫さん（ご夫婦共に満 88 歳）宅内に、図－３のとおり、老木の梅があります、幹部分は一見、完全に枯れ果てた肌合いですが、春一番、途中から伸びた枝に見事な白い花を咲かせて大きな実を付けます。半分よれよれですが、半分は活力がみなぎっています。この梅の老若混合に倣(なら)い、大きな節目の 70 歳に歩き旅を集大成すべく取り組みを行いたいと念願しました。

（3）今頃になって気付いた「部分カット」

ここに至りハットしたことがあります、妻との日常における何気ない会話の中でも些細な言葉が引っ掛かり口論になったりするのです、それらの感情を振り返ると次のようなことに気付いたのです。

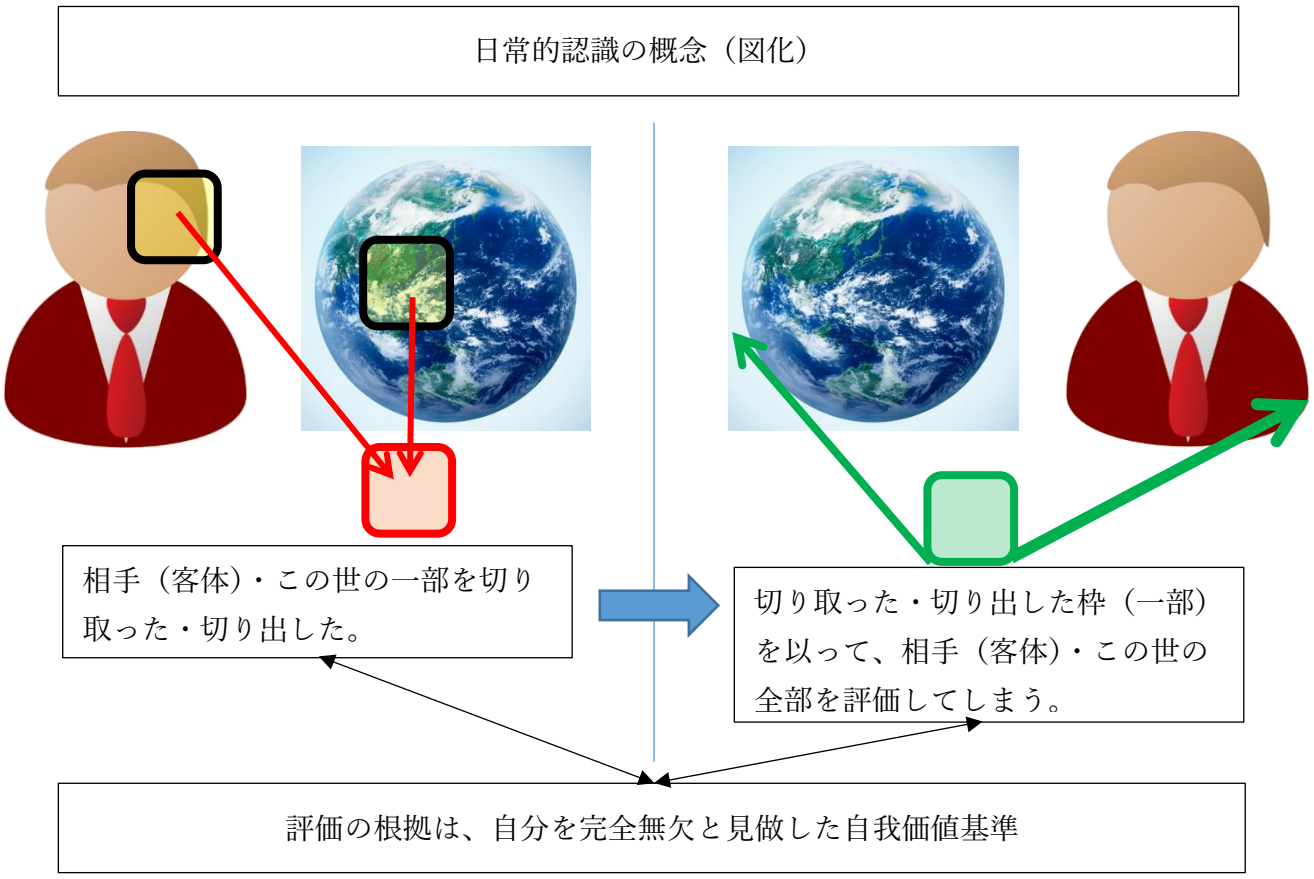
○　何かに付けて、好き嫌い、賛否、善悪等の二義分別を以って相対比較しているということ。

○　相手・客体としての他人を、私が定めた何がしかの『価値判断基準』と比較して合致するかしないかで振り分けている、より分けているということ。

○　自分の知識・知恵、「心・言・行」というものは、この世・宇宙の全ての「もの・こと」から自分の尺度で切り取った・切り出した一部分・断片に過ぎないということ。

これまでの人生に積み上げて来た体験・経験を絶対化・金科玉条化し、何かに付けて「もの・こと」の対象に独善の判断基準で勝手な境界線を入れ、毒牙で裁断した「断片」を大きく振り回しているのではないか？　大いに反省すべきであると気付いたのです。

これらのイメージは図－4のとおりです。要は「断片」を以って「全部が分かった」とする悪弊、妄想が問題なのです。



図－4

なぜ、今頃になって気付いたのか、生まれてこの方70年も経過し、既成概念が無意識層に沈殿し固着して岩盤状になっているが故に「『自由が自由に動けない不自由』になっていた」からです。「ア縫自根性（自分が自ら布を裁断縫製し、袋を作って、その中に自ら入って不自由になっている様相）」を叩き壊さなければならぬと自覚するようになったのです、ならば如何にすべきなのか？　ならば、歩き修行に身を投

じて、汗を流し、心をあれやこれやと自由に泳がせて、再起動する他はないと思った次第です。

3.本計画の「大香(だいこう)ブランド老魂(ろうこん)サブタイトル」を「　冠カップ・メトロノーム作造大作戦　」とした理由・背景

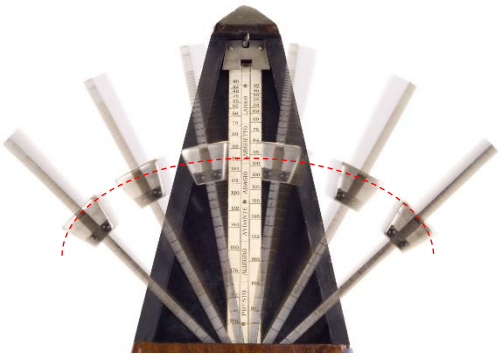
（1）想像展開

上記の計画ルートを踏まえて、本サブタイトルの設定に当たっては、あれやこれやの想像過程に『トポロジー、デフォルメ、メビウスの帯』の考え方（緻密、大雑把、適当）を入れ込んで展開して行きました。

（2）まずは、メトロノームのこと

上記、心の葛藤に係る延長線上に閃いたのが図－5の『メトロノーム』（Web ゲッティイメージズより）です。一定の間隔で音を刻み、楽器を演奏あるいは練習する際にテンポを合わせるために使う音楽用具であります。物理的な振動子です。始めに大きく振っても小さく振っても固有の振れに収束し継続します。

これを頭の片隅において展開して行きます。



図－5

（3）GPS 軌跡の作図

前記図－2の GPS 軌跡に係るイメージ作図は、図－6a～図－6d とおりとなります。

a.図－6 a は、GPS 軌跡を平面的に表示したものです。中央部底に小さな穴開きカップを観(み)ました。穴開きの事由について、軌跡最低部（最南端）は、潮水を汲み上げる高知市高知港で太平洋に直結しています。また、カップに心を重ねて、穴を見るその心は風通しを良くしたいからであります。

湾曲(わんきょく)した横棒はメトロノームの重り（カップ）が左右に滑る振り子軌道と見做します。

b.図－6b は、図－6a に立体視観を加味し、真ん中部の横棒を切り取り、楕円形に加工し、最上部に付けて立体感を表示したものです。中央部にはカップ同様のイメージが作られました。メトロノームは左右に振り切った時に向きを変えるので、その両端にストッパーを表す三角矢印を付加しました。

まずはカップに着目します。カップは私自身です、カップ上方開口部は口(くち)、底部の小さな穴(あな)は肛門です。口・穴は私の外界との流通孔です。

c.図－6c は、メトロノームの左右振動軌道上をカップが移動する状況をイメージしました。

軌道の内側を内側空間・内部環境（略して内宮(ないくう)）とし、外側を外側空間・外部環境（略して外空(がいくう)）と見做し、心の芯棒からの目線は内外流通を通して、かつ振れることは、高角度のさらなる視野醸成の意味を乗せて、―――私の希望精神を仮託したイメージ図です。

d.図－6d は、メトロノームに GPS 軌跡を重ねた場合のイメージ図です。穴付きカップはメトロノームの重(おも)りに重なります。両極のストッパーに当たって反動、逆向きに振動するが、ここに心を入れると、「往来」「揺らぐ」「動揺」「同期・同調・共鳴」「繰り返す」「振動」「リズム」というキーワードが表れます。

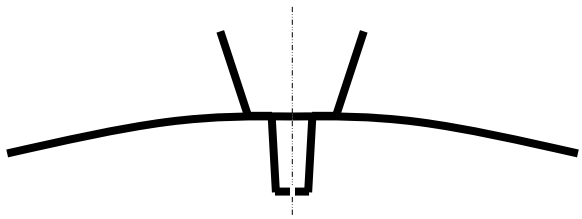


図-6a

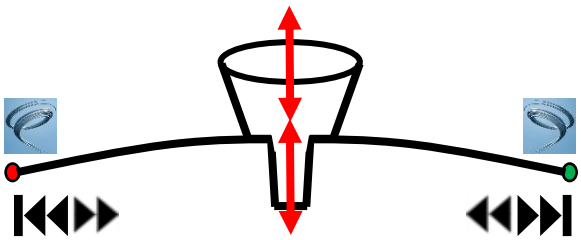


図-6b

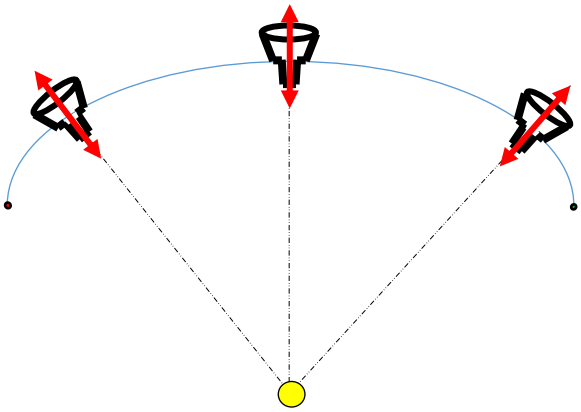


図-6c

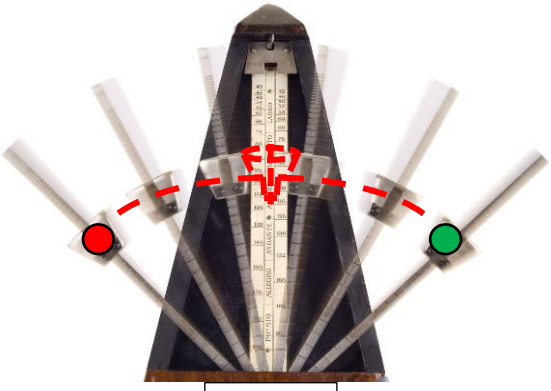


図-6d

（４）『横一（よこいち）』軌道線の左右両極ストッパーの意味合い

次頁図－7のとおり、『横一（いち）』のスタート基点（始点）は宇和島（豊後水道接）およびゴール基点（終点）は徳島（紀伊水道接）の沖合は、大観し、外海（太平洋）から内海（瀬戸内海）へ、逆に内海から外海への潮流が、交差・合流・衝突する場所であると観ます。干満差、水位差などで回転流、すなわち渦が生じている所と想像します。つまり、相反する流れの交差・合流・衝突によって、新しい流れの現象、回転流が生じた、新しいものを生み出した、相反から新しいもの・ことが生まれるという訓えを読み取り、ストッパーにそれらを凝縮・仮託したということです。

４.本サブタイトルの決定

私の感情・思考や身体の動き―――右往左往、乱高下、ジクザク作動、不安定、動揺、喜怒哀楽―――を省みると自身の浅薄・短小・狭隘さや反省する点が多々あります。

他方で、右往左往、乱高下、ジクザク作動は、奈良薬師寺の高田好胤（こういん）元貫主が日頃から口癖であった「偏らない、拘らない、捉われない」という考え方にとっては必要な点であります。「和の心に西洋の技」です、「不易流行の調和」です。

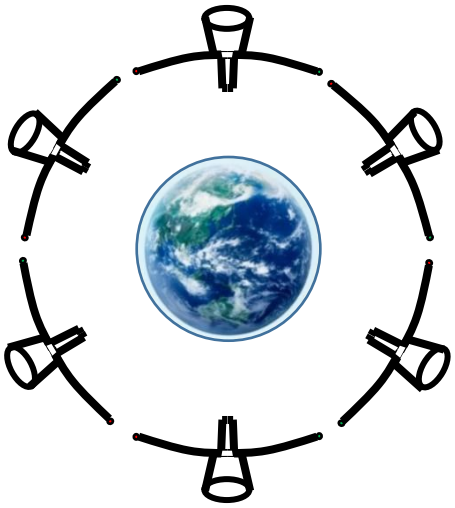
以上の事情を総合し、何かに凝り固まらない、一方的な見方に固執しない、先入観破壊を強く意識する精神を冠カップ・メトロノームに乗せ、次頁図－8のように地球空間を回転させるイメージに発展させました。

その“こころ”とは「リミット・サイクル振動」というキーワードです。カップの中には背負った真水と汲み上げた潮水を入れ、「リミット・サイクル振動」を生成しながら――異質なものを混ぜると、双方の接触面から自励振動が生まれる現象―――自由奔放な遊びを満喫したいと念じました。他人・他者から振り回される生き方ではなく、自身内に異質なもの・対極にあるものの考え方を敢えて取り入れて、自らが振動―――自励振動を起こす体質にしたいと念じています。

ここに「　冠カップ・メトロノーム作造大作戦　」と設定したのです。

内海（瀬戸内海）
外海（太平洋）
四国山地
愛媛
香川
徳島
高知
岩国
呉
倉敷
岡山
松山
高松
新居浜
宇和島
佐伯
沖の島
四方
室戸
阿南
足摺岬
室戸岬
剣山
1955
1982

図－７



図－８

II＿「　四国　縦Ｖ横一（たてブイよこいち）　登山へんろ　」の実施結果について

2019(令和元)年 10 月 14 日(月)、自宅から新幹線等の鉄道利用により愛媛県西条市大町（伊予西条駅前）ビジネスホテルに到着しました。引続き瀬戸内海側の東伊予港に散策に出かけ、海辺から海水（潮水）を汲み上げペットボトルに確保（後記する）しました。

翌 15 日(火) 同宿から歩き始め本番スタートを切りました。第 1 目標点の高知市まで南下し、引続き逆に別ルートを北上し、10 日目の 10 月 24 日(木) 、再び瀬戸内海側愛媛県四国中央市川之江町に到達し、ここに『縦V(たてブイ)』の足跡を残しました。 9 連泊 10 日間の総歩行距離は 244km となりました。
次に JR 乗車により宇和島まで移動し、ビシネスホテルに投宿しました。

翌 10 月 25 日(金) 愛媛県宇和島市寿町から歩き始め、四国の内陸中央部を西から東に横断し、12 日目の 11 月 5 日(火) 徳島県徳島市一番町に到達し、ここに『横一(よこいち)』の足跡を残しました。
11 連泊 12 日間の総歩行距離は 336km となりました。

縦V(たてブイ)横一(よこいち)の通算、正味 21 連泊 22 日間 580km のスルーハイク歩き旅となりました。

1.行程

（1）スタート日

関東・南東北の一部に甚大な被害を与えた台風 19 号の動向を注視し、10 月の中日である 10 月 15 日(火)を現地スタート日と設定し、敢行しました。

（2）日数と歩行距離

図(表)－9 のとおり、縦V(たてブイ)は行きと戻りが 5 日間ずつの 10 日間を要しバランスが取れました。前半の縦(たて)V(ブイ)ルートは急峻な山道の上り下りが多く、1 日当たりの歩行距離は 24.4km と短く、後半の横一(よこいち)ルートは車道歩行の割合が多く、1 日当たりの歩行距離は 28.0km と長く稼げました。

行程	スタート日	ゴール日	所要日数	歩行距離計	1 日当たり
縦V(たてブイ)	10 月 15 日(火)	10 月 24 日(木)	10 日間	244km	24.4km/日
横一(よこいち)	10 月 25 日(金)	11 月　5 日(火)	12 日間	336km	28.0km/日
計	―――	―――	22 日間	580km	26.3km/日

図（表）－9

（3）天候

図（表）－10 のとおり、前半の縦V(たてブイ)は雨、後半の横一(よこいち)は晴れと二極化の傾向となりました。合わせて“あっぱれ（雨晴(あっぱ)れ）”であったと天からご褒美を頂戴しました。対極ゾーンが形成されてチャラになった、中和したということです。

縦V(たてブイ)	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24		
天気	曇り 霧雨	快晴	曇り	小雨	雨 曇り	晴れ	曇り 霧雨	晴れ	晴れ	雨		
		石鎚 山							(※1)			
―――												

横一(よこいち)	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31	11/ 1	11/ 2	11/ 3	11/ 4	11/ 5
天気	晴れ	晴れ	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	晴れ	晴れ	快晴
			(※2)						剣山			

図（表）—10

(※1)；旧土佐北街道の土砂大崩落地通過　　(※2)；カルスト台地通過

2.四つのターゲット・ポイント

四つのターゲット通過時の天候はいずれも快晴でした、体調も万全で全 22 日間に 1 日たりとも停滞日を設けることなく、連日連続歩行で所期の目標地点を通過出来たことはとても幸運だったと思います。

もしも、雨天であれば、Ⓐ石鎚山登拝およびⒹ剣山登拝については、登山道がしっかり整備されているので登頂出来たとしても、眺望はなかったでしょう、それでは台無しです。

（1）Ⓐ石鎚山登拝

a．踏査ルート（図－11）

2 日目の 10 月 16 日(水)、ロープウェイ駅近くの前日泊宿から西之川古道登山口に入り、古道を歩いた、メインルートではないようだが、特に歩き難い所はありませんでした。途中石鎚神社成就社に参拝しました。

図—11

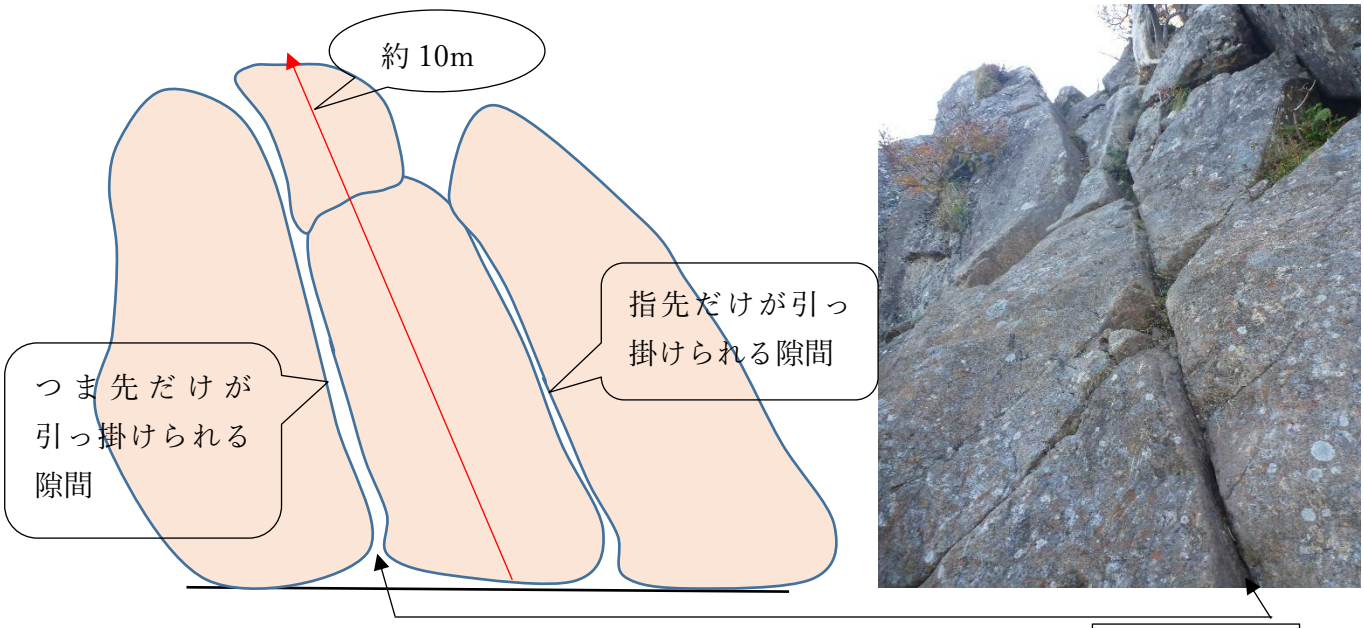
b.核心部；山頂付近の地形図は図－12 のとおり。

その 1 ；本来は二ノ鎖元小屋分岐から石鎚神社頂上山荘に直登するのが正常ルートでありますが、快晴であり時間に余裕があったことから、東側の分岐から矢筈岩(やはずいわ)→南尖峰→天狗岳（最高峰）→山頂に至るルートに挑むことにしました。そのルートに入った途端に通行禁止の標識がありました、しかし、どこが難所なのかこの眼で見たくなり登って行きました。道型（道跡、踏み跡）はあるが掘れて U 字溝となっており、密生した笹（スズタケ）が覆い被さり、この小さな全体身が埋もれる状態で前が見えないくらいでした。踏み跡はあるもののまったく整備されていません、もちろん標識もありません。笹薮を両手で払い除けながら必死で登りました。なお、図－13 中紫色は翌日の土小屋方面へ下るルートの GPS 軌跡です。

その 2；問題は南尖峰の大砲岩でした。高さ(長さ)10m くらいであるが、図－13a のように配置の大岩が左に傾いた状態になっています、図－13b は図－13a 左側の隙間周辺の現地写真———全体像を撮りたかったのですが、足元の平場は幅 1m 程度、その後方は垂直の崖となっており、これ以上後ろに下がれないのです。ハーケンは打ち込まれていません、もちろん、鎖やロープも設置されていません。はて、どう攻略するかしばらく思案しました。僅かの隙間に下方は靴の先を引っ掛け、上方は右手指先を引っ掛けて登らなければなりません。両手はその隙間に入れましたが、確実に岩を掴んだ感じがしませんでした。岩

図―12

全体が左に傾いているから背負った荷物が荷崩れを起こす、荷物の傾斜で体が左側に寄せられる懸念がありました、覚悟して勇気を奮い呼吸を止め集中して慎重に一気に登り詰めました。フロンティアスピリットとルートファイティングの心意気が湧いてくるのを自覚しました、この老体のどこから来るのか不思議です。



図―13a　　図―13b

私の取り組みは無謀、一種の賭け事でした。しかし、「必ずや、成功する、行け！」という指令が天から下りました。このような時は過去の成功体験は通じません、その眼前の危険と真っ向対峙、逃げない勇気が「火事場のバカ力」となって力を発揮します。普通は岩登りに長けた人が先行し、ロープを張ってから後続するというのでしょう。快晴下であっても岩登りの対策なくして下ることは私にとっては不可能な場

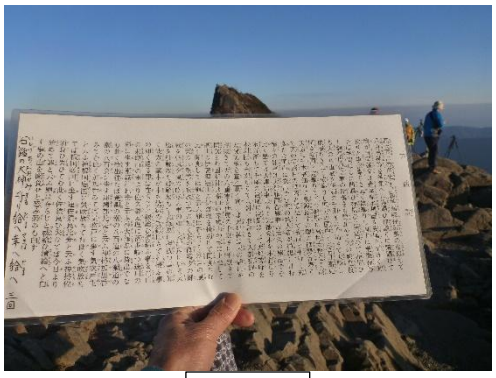
所でした。雨降りの場合は、下りは、そもそもこのルートは回避していました。これまで、北アルプス－－槍ヶ岳、剣岳、立山連峰他－－を縦走して来ましたが、ここほど緊張した危険個所はありませんでした。

もの・ことは、“(前者)善は急げ”もあれば、“(後者)逃げるが勝ち・急がば回れ”という正反対・両面の訓えがあります。強行突破するのかどうか、使い分けは「無意識層」から自発・染み出る直感だけが頼りです、天は前者を以って安全サイドへ案内誘導してくれました。後者のそのような言葉を吐く心理は、実は本心は「逃げる」です、自分が自分に負けた証左を隠すための方便（隠語）であります。

その３；結果は、この南尖峰を攻略・突破し、最高峰天狗岳に達し、石鎚神社頂上社と今日の宿の山荘に到着しました。紅葉は始まったばかりでしたが、全国各地から来た大勢の登山者がいました。同頂上社から御朱印を頂戴しました。夜は雑魚寝状態でしたが思ったよりも寒くなく、また、朝夕の料理もとても美味しいものでした。快晴下、360 度の眺望を思う存分に楽しみました。お、Ⓐ石鎚山においては、前日の宿泊先の所で、下山して来た数グループの人達から聞くと、1 日中ガスが掛かっていたようですし、私が翌日見た処でも、同山頂から下山する 8 時頃からはガスが掛かって来ました、途中山頂方面を何度か振り返りましたがまったくの雲の中でした。要はこの 16 日だけが快晴、その前後は雲の中ということでした。

ｃ.夕拝（17 時）と朝拝（６時）の祈祷

石鎚神社頂上山荘に泊まったが、頂上社では登山者を含めて、毎日朝夕の２回祈祷がありました。



図―14

神職の先導のもと『大祓詞（だいはらえのことば）』の祝詞（のりと）を山頂に居合わせる全員で斉唱しました、祝詞はラミネート加工され、それ（図－14）を全員が手元に持って唱えました。日没は 17 時 35 分頃、日の出は６時 14 分頃だったのですが、それに合わせての斉唱でした、神社の前で皆による祝詞斉唱は初めてでした。夕日と朝日が真ん丸にくっきりと見える中なので、身の引き締まる荘厳さと光輝は神々しさが漂っていました。なお、同図写真の上部突端は、最高峰天狗岳の切っ先です。

図―15

ｄ.石鎚山に繋がる前後のルート

さて、前記図－11 に続く図－15 に記述した３個所「シラサ峠、寺川（集落）、越裏門（えりもん）（集落）」のポイントについてです。民俗学者・社会教育家の宮本常一（みやもとつねいち）さんは、著書――　「忘れられた日本人」の“土佐寺川夜話”、「山に

生きる人々」の“山民往来の道”の章にカッタイ道に絡む話を記載していることから興味を持った次第です。宮本常一さんを知ったそもそもは、2017(平成 29)年「四国 88 か寺霊場／通し逆打ち／歩きへんろ（40 連泊 41 日間)」に引続き「『坂本龍馬脱藩の道』ウォーク（高知から伊予長浜まで 5 連泊 6 日間)」を貫（完）歩した時、梼原を通過するが、そこを舞台にした「土佐源氏」を読んだことから始まりました。

（2）Ⓑ「旧土佐北街道（参勤交代北山道)」踏査

その 1；同街道の前半部の難所、権若峠はススキ密生

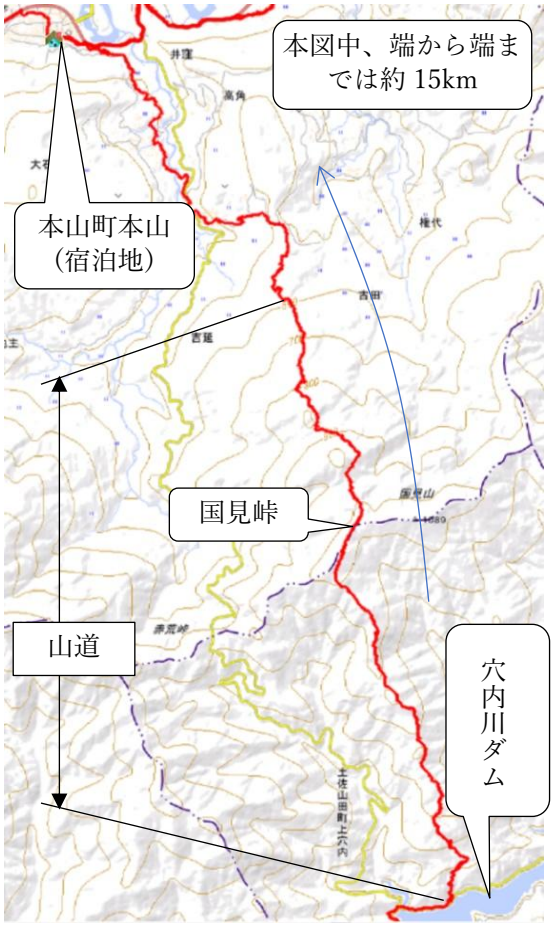
7 日目の 10 月 21 日(月)、曇り、権若峠（図－16a）の現状は図－16b 上のとおり、ススキ等背丈が高い草で覆われ、中央部に写る石碑のある場所が分からずウロウロしやっと発見しました。道型がまったく分かりませんから、今度はここからの出口が分からずまたもやウロウロしました。ところが、何年前か分からないが、インターネットから拝借した図－16b 下のようにきれいに下刈りされていれば問題がなかったのですが。　この道の保存に係る人達の怠慢なのかなあ！？　それとも関係者は死んだのかなあ！？と失礼・不謹慎なことが浮かびました。

ところで、“『歴史の道百選』に選ばれているスゴイ道”などと評価している人がいるようですが、私から言わせれば零点です。なぜならば、同百選に指定されてその石柱標識は一切の費用を合算すれば公金（税金）を何十万も投入したことでしょう。また、同百選に指定されていることから、毎年の整備（下刈り等）に何がしかの公金（税金）が投入されているはずです、しかし、その役割を履行していない恐れ十分です。

図―16a

図―16b

図－17 は図－16a の北方に繋がる同旧道です、山道はザレてはいたが、格別の危険・問題となる場所はありませんでした。



図―17

図―18

その２；同街道の後半部の難所、笹ケ峰手前（南側）

図－18 を参照、**本件スルーハイク中の最大の難関**であった所を取り上げます。９日目の 10 月 23 日(水)、快晴、土砂大崩落個所に突入しました。　手前の集落で数人から「土砂崩れで旧街道は消失した、通れないよ！」ということと、立川番所跡の処にも同様の張り紙がありました、が、拒絶されると燃える（逆上する）のが私の悪い性格、天候は良いし、楽観的に“何とかなるさ”でいつものように挑戦することにしました。2018 年７月西日本を中心とした豪雨被害の爪痕です。**想像以上の地滑り状態でした。**図－19a は崩落地の入り口です、歩を進めると図－19b～図－19e の様子（いずれも上方の視界）です。幅百ｍ以上、長さ数百ｍに渡る大崩落の地点です、隣り合った大きな二つの沢筋が被災していました。もちろん、**旧街道の道筋は跡形もありません、まったく先が見通せません。自分でルートを探すしかありません。一時、躊躇しました、引き返そうかという弱音が過りました。**図－19e は崩落部の中央部を潜り抜けてやっと街道に復帰した地点から下方を覗いた写真です。同写真中の赤い実線が歩いたルートです。この崩落地帯を抜けずして、大きく迂回し山林の中に入ろうとしたが、濃い雑木藪でかえって体力消耗に繋がると思いこれは避けることにしました。入口で怖気づき戻って、県道５号線に迂回すると２時間以上のロスとなります、というよりも、**迂回したら自分が自分に負けたことになります、途中引き換えしは最も恥じる処です、後悔を引き摺ります。よって、一大決心！　ルートファイティングの情が燃えました。**挑戦し安全に突破出来るのは、計画ルートを格納した GPS 機(ガーミン社オレゴン)を胸に携行しており、先々の古道の

方向が分かることから、目前の道が寸断されてジクザクのコースを取ってもいずれは健全な古道に復帰出来るという見通しがあるからです。

この付近を通る県道５号川之江大豊線は、笹ヶ峰直下付近で同様の崩落があり、通行止めがその時も続いていました、また、ここより少し下流の立川トンネル周辺でも大規模崩落により高知高速道も被災しました。

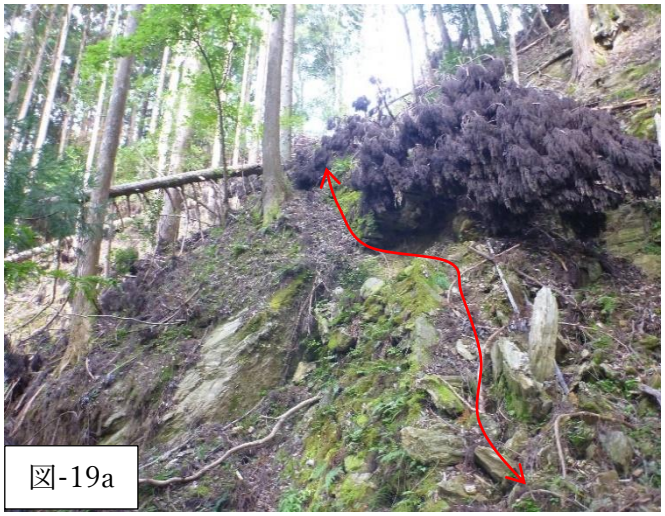


図-19a

図-19b

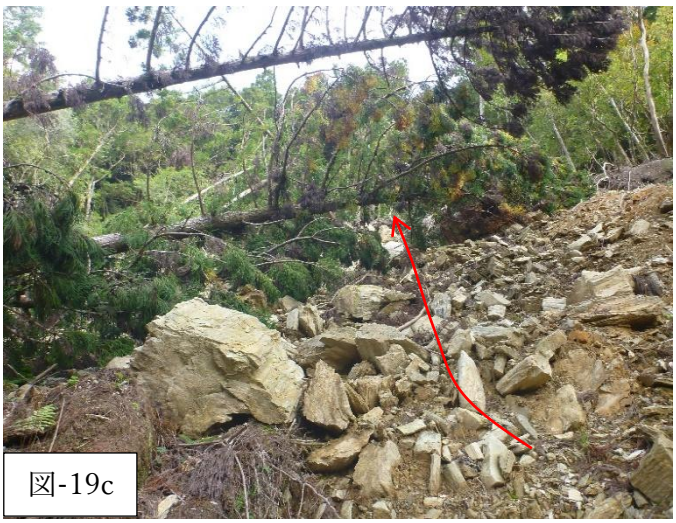


図-19c

図-19d

図―19e

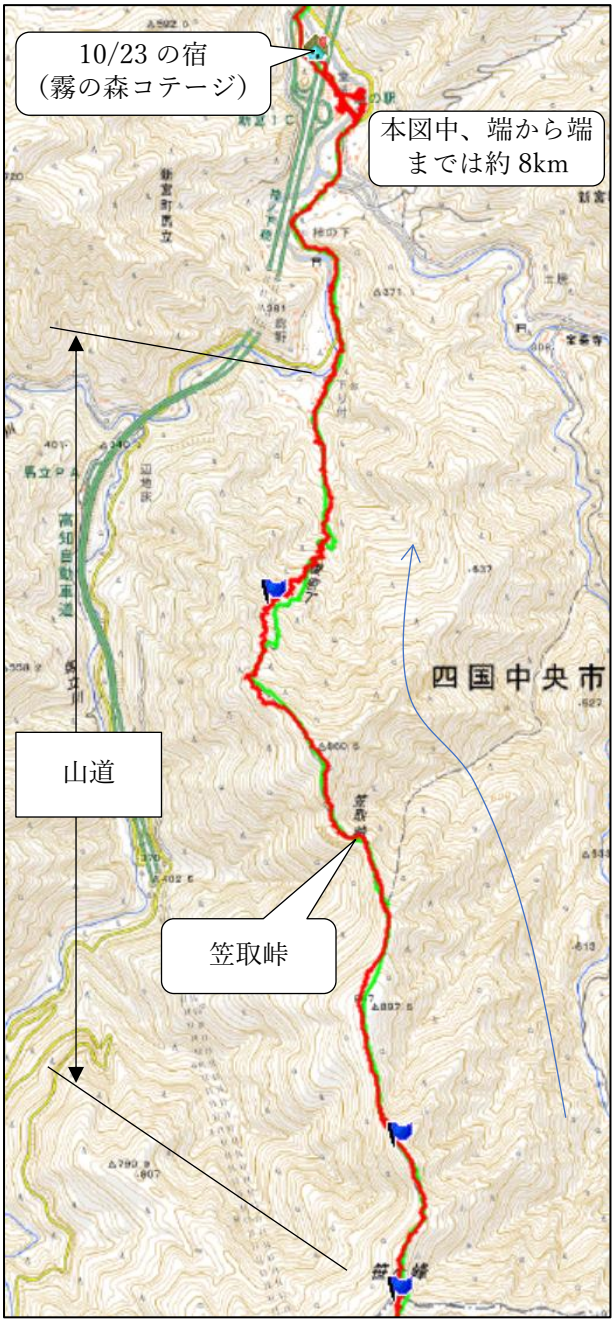
図―20

図－20 は県道５号線と交差する個所です。なお、笹ケ峰稜線は高知・愛媛の県境で、このルートの少し離れた所が最高地点で 1,016m ほどありました。

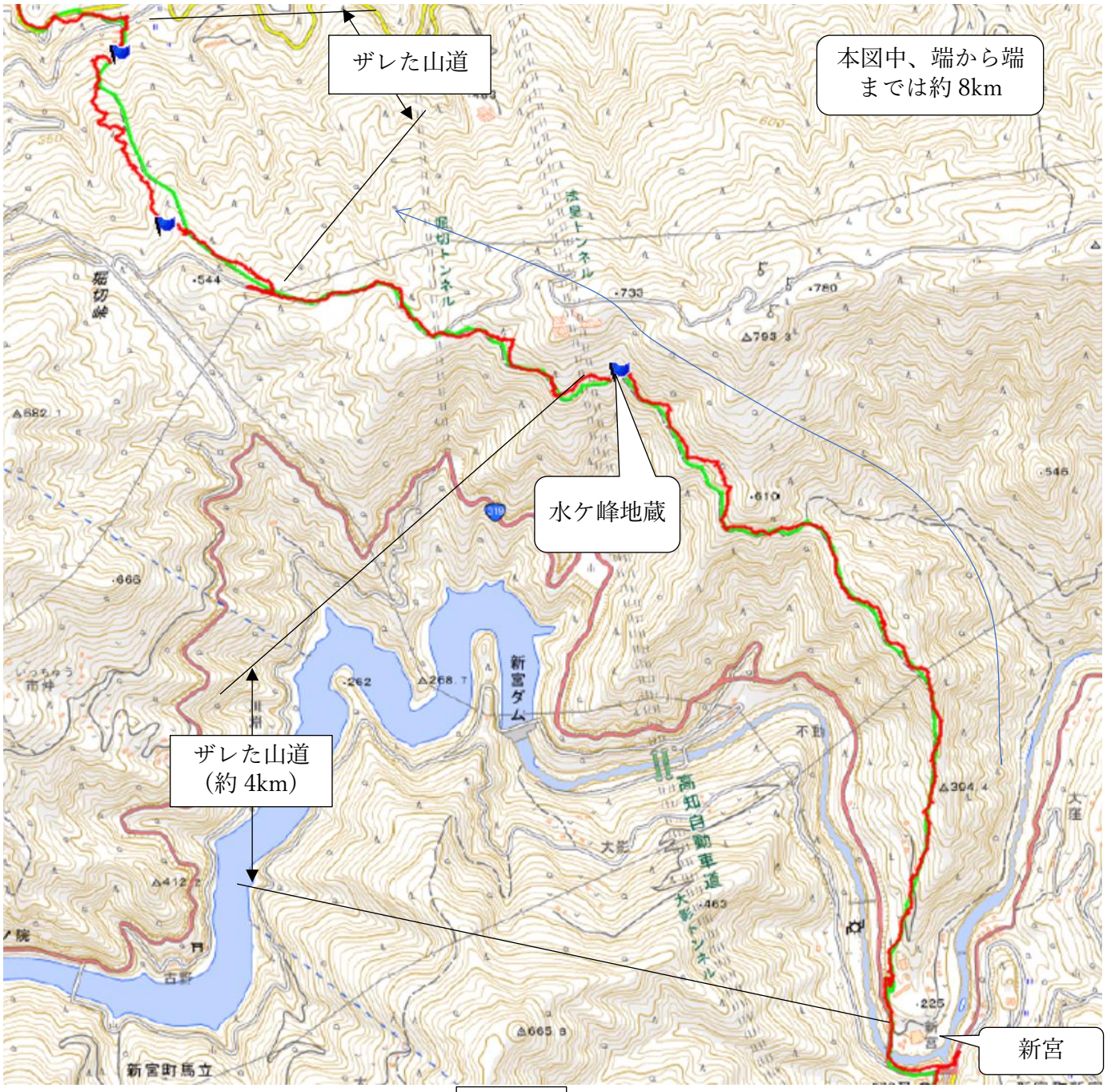
その３；同街道その他の部分

図－21 は図－18 の北方に繋がる旧道です。笹ケ峰を越えると一旦下り、さらに笹取峠に登り、そこを越えると急坂下りの山道となりました、そこそこ歩かれている状態にあり、歩くに支障のある所はありませんでした。まさに参勤交代でお殿様が通った道でした、素晴らしいルートでした。

10 日目の 10 月 24 日(木)は前日とは打って変わって、宿（霧の森コテージ）を出た時から雨が降り続き、この日の最終地点 JR 川之江駅までの 5 時間 30 分ほどは雨具を着用しました。図－22 は新宮からの旧土佐北街道の最後の部分です、新宮からは車道迂回も浮かびましたが、まったく問題にせず、旧街道を歩きました。本降りの中、道型は明瞭であるが、ザレた状態は歩き難いこと最悪！　ただ、積もった細かい砂利、枯れ枝、落ち葉が返って水捌(は)けを能(よ)くしているのか、幸いにも川流れ状態の所はほぼありませんでした。道は近年ほとんど歩かれていない状態で、倒木などもあり全般的にかなり荒れていました。



図―21



図―22

（3）©四国カルスト台地登行

13 日目の 10 月 27 日(日)、快晴、図－23a のとおりの国土地理院地形図には、井の谷集落から生え越までは点線（山道）で表示されているが、前半部は、道型はあるものの廃道化（石ころのザレ、樹木の枯れ枝、倒木、道の中央部に雑木・笹竹などが繁茂）して、歩くだけでも難儀を要しました。小さな神社から先の後半部は完全に廃道となっていたことから、カルスト台地を目指して直登しました、台地に出る直前は棘（とげ）のある樹木の壁になっていました、その棘のある樹木は、南側の斜面に生えていることから背丈を超える繁茂状態でした。500m ほどの道のりであるが、ラグビーのデフェンスラインに突進すれども中々突破出来ない状

図―23b

況（一進一退）でした。普通ならば 7・8 分の処 30 分ももがいてやっと脱出しました。

棘の樹木そのものの写真は撮らないでしまったが、図－23b 奥側（進行方向）樹木の大半が棘だらけでした。

図―23a

図－24 は図－23a 右上に続くカルスト台地の状況です。とても気持ちのいい天空散歩の気分になりました。　大引割の場所は、台地に出来た大きな亀裂（裂け目）です、底に降りて覗いて来ました。

Shikoku Karst Prefectural Natural Park
四国カルスト県立自然公園
姫 鶴 平
ME ZURU DAIRA
愛媛県久万高原町
Mezurudaira plateau
大引割
沢沿いの山道、荒れていた
高野本川
猪伏
天狗高原
黒滝山
五段城
姫鶴平
大引割・小引割
大引割峠
四国のフォレスト
五段城高原
1,456m
天狗高原
1,485m
姫鶴平
1,310m
本図中、端から端までは
約 13km
大引割

図―24

（4）Ⓓ剣（つるぎさん）山登拝

19 日目の 11 月 2 日(土)、快晴、図－25 の見ノ越には 12 時過ぎに到着したことから、食堂もやっている民宿で昼食を取り、13 時に剣山山頂を目指して登りました、西島駅までリフトはあるが、当然、荷物全部を背負っての－－－民宿に預けずに山道歩きです。山頂は笹原のなだらかな台地状でありました。快晴下、四国全土丸見え状態の 360 度の眺めを楽しみました。紅葉は始まった処でしたが、大勢の外国人観光客（登山者）がいました。

図―25

なお、後日、写真を整理格納したパソコンの操作ミスにより、データを消失させてしまったことにより、ここに記載出来ないのが残念であります。見の越にある剣神社および山頂にある剣山本宮宝蔵石神社から白衣に御朱印を頂戴しました。翌日 11 月 3 日(日) は、宿を取った見の越からⒹ剣山方向を眺めるとガスが掛かっていました、次の目標点に向かって歩く途中山頂方面を何度か振り返ったがまったくの雲の中でした。前後に鑑みて登拝した 11 月 2 日(土)の日だけが快晴に恵まれた日撚りでした。

3.その他の山道

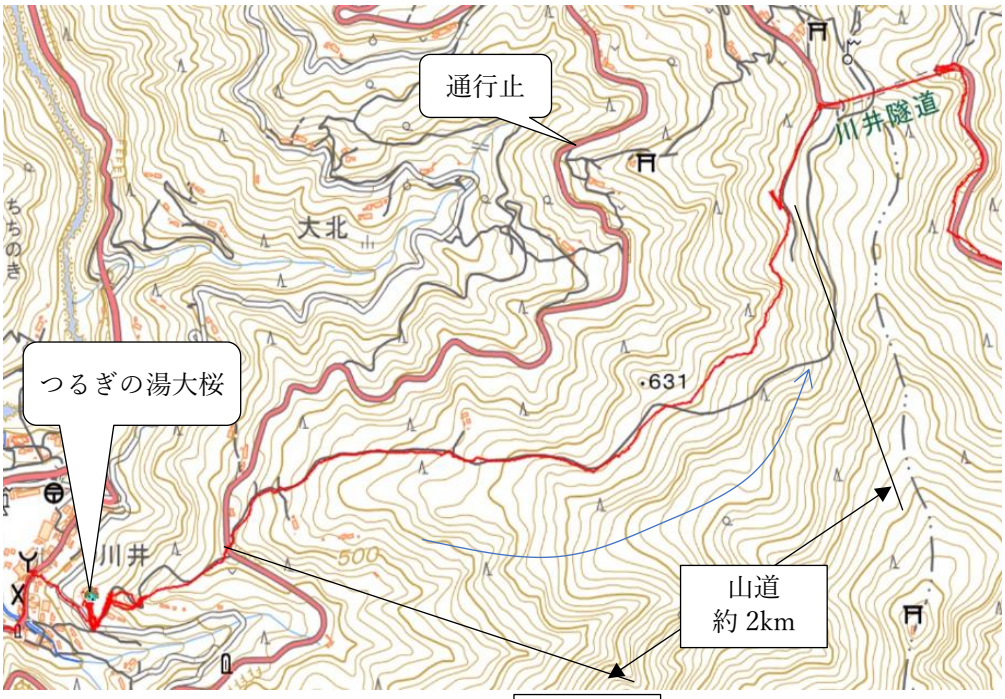
その 1（図－26）

5 日目の 10 月 19 日(土)、前泊宿のスタートから雨具を着用した。連行の集落からこの図右端の車道（合流点）に向けての山道ルート選定をしたのは、国土地理院地形図上に道の印（点線）が表記されていること、合流点（愛媛・高知県境に近い）への近道であることからです。たまたま登り口で地元の女性と会ったのですが、聞いたら「この当たりの住民が、昔から土佐（高知）へ越える旧街道であった。」とのことでした。道型は U 字状で明瞭であったが、完全に廃道化し、道の中央部に繁茂した雑木は私の背丈を越え、両手で掻き分けながら進みました。また、所々で伐採した杉の枝が投げ込まれており通行止めの状態、脱出するのに四苦八苦しました。雨と汗で合流点に達した時は、全身びしょ濡れでした。

図―26

その 2（図－27）

20 日目の 11 月 3 日(日)快晴、この川井峠（隧道）越えのルートは国土地理院地形図には車道と明示されているが、現地は、一部は林道と重なってはいたものの、ほとんどは山道（明らかに旧街道の道型）でありました、廃道化していたが、歩く



図―27

には支障はありませんでした。

4.五個所の港から汲み上げて金剛聖水製造

今回も、真水と潮水（海水；塩水）の異質なものの接触は、人間（私）の神経細胞膜に生じているリズム機能（リミットサイクル振動）に繋がり、これらの学びも加えて取り組むこととしました。　真水は、自宅発の前日 10 月 13 日(日)に、私の父母・弟が眠る菩提寺は新福山石行寺境内に流れる御滝から真水を採取し、図－28 の 50CC ペットボトルに注ぎ込み背負いました。最終の仕上り総括は図(表)－29 のとおり、四国現地においては後記図－30 のとおり、5 個所の港に立寄り、そこで海水（潮水）に手を入れ、舌で味見して心身を浄め、背負った同ボトルに次々と潮水を加えました。ここに金剛聖水の最終製造に成功したのです。

海面場所は海抜ゼロメートル地点です、『縦V』ルートについては、東予港スタート点はゼロ m、そこから最高地点石鎚山の 1,982m に到達し、高度を下げ中間ゴール点高知港に達しそこはゼロ m 点、折り返すように高度を上げ、最高地点笹ケ峰 1,016m を越えて、川之江港ゼロ m 点にゴールしました。

『横一』ルートについては、宇和島港スタート点はゼロ m、西側半分区間の最高地点天狗高原 1,485m を通過し、東側半分区間中の最高地点剣山 1,955m を越えて、最終ゴール点徳島港ゼロ m に到達し終了しました。海抜ゼロメートルとは、一つの区切りを終えたことに伴うリセット（再起動）の意味合いです。

図―28

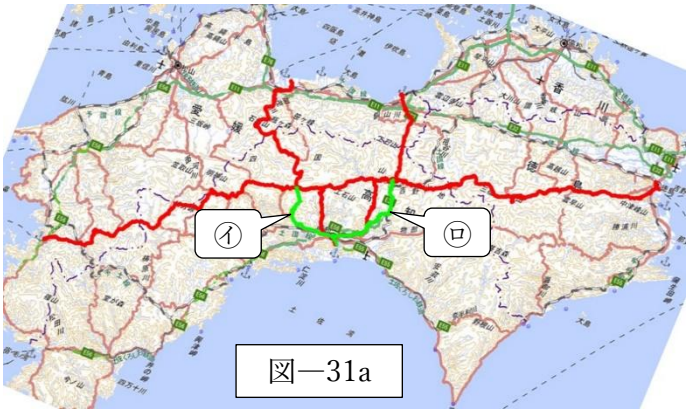
順番	採取場所	採取月日		時間帯	天候
㋐	東予港	四国内スタート前日	10 月 14 日(月)	16 時 20 分頃	曇り
㋑	高知港	6 日目	10 月 20 日(日)	9 時 20 分頃	晴れ
㋒	川之江港	10 日目	10 月 24 日(木)	11 時 40 分頃	雨(どしゃぶり)
㋓	宇和島港	11 日目	10 月 25 日(金)	7 時 30 分頃	晴れ
㋔	徳島港	22 日目	11 月 5 日(火)	14 時 25 分頃	快晴

図(表)―29

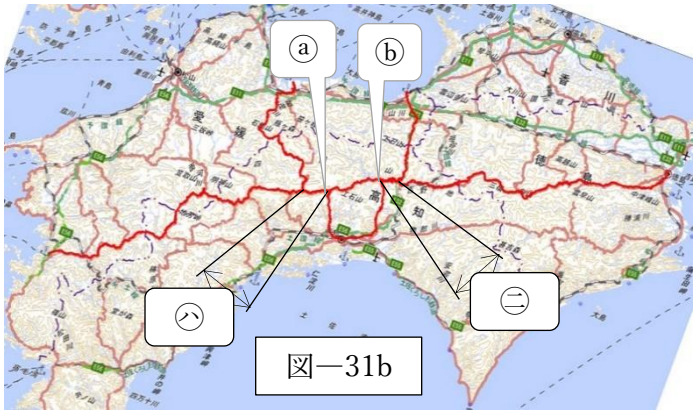
図―30

5.「重ね・撚(よ)り・ねじれ」を入れた理由

『縦(たてブイ)Ｖ』ルートにおいて、最初は、図－31aにおけるような樫(かしがみね)ケ峰越えの㋑ルート、根曳(ねびき)峠越えの㋺ルートも検討しました。その計画ルート対応のGPS軌跡を眺めていると、Ù字（状）では何か締まりがないというか、何かアクセントが欲しいと考えるようになりました。そして浮かんだのが今回の実施ルートを計画することでした。一方で、図－31bにおけるように『横一(よこいち)』ルートと㋩および㋥部分は重なります、無駄ではないのか、やはり時間的には短い㋑および㋺にするか、というような揺らぎ（迷い）がありました。　重ねると言うが、道筋は同じであっても、実際の一歩ずつの足跡は前後まったく同じになることはなくジグザクになることから、その足跡はすなわち縄を撚る、ねじるに相当する、それは強さを増加せしめることになります。すなわち私の完遂を目指した決意を揺るぎ無く固いものにし、意志が空中分解しないように『縦(たてブイ)Ｖ』と『横一(よこいち)』を一体化させるものとの思いを込めることにしました。

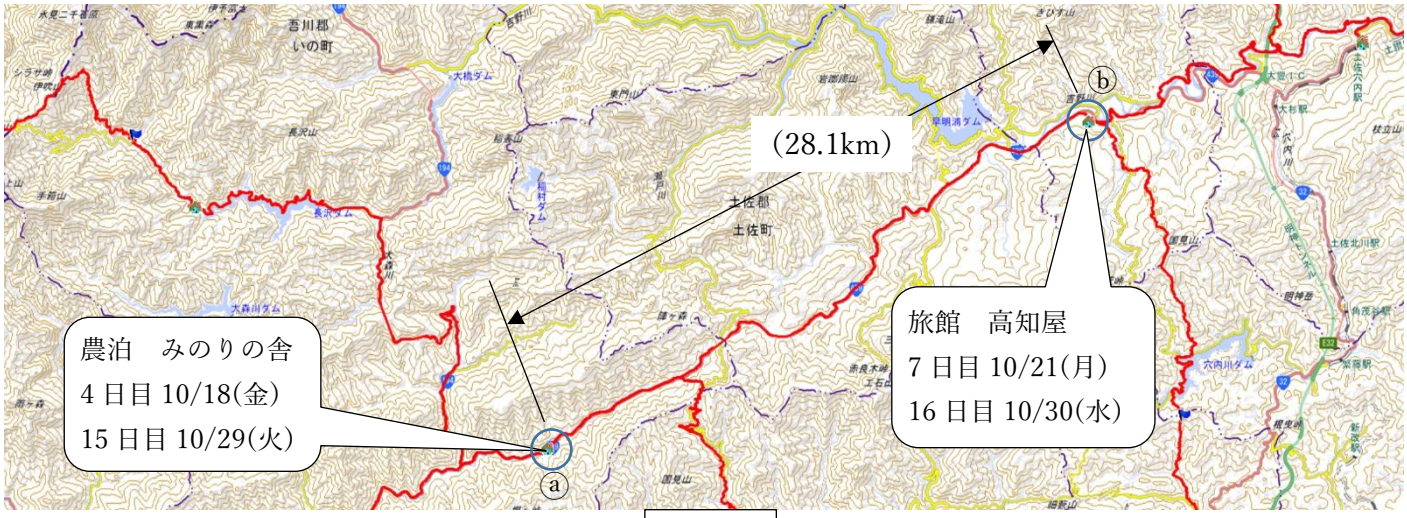


図―31a



図―31b

同図のⓐⓑ間を拡大したのが図－31cであるが、結果して、農泊みのりの舎および旅館高知屋にはそれぞれ２泊したことになりました。



図―31c

重なり部分を整理すると図(表)－32のとおりになりました。総歩行距離に対する割合は4.1%および3.9%でニアリィイコールとなりました、左右をバランス能(よ)く練った、編んだということになりました。

	基点集落	距離	備　考	所要時間
㈥区間	高知県いの町上八川思知～ 同上八川連行	約 9.5km	『縦Ｖ（たてブイ）』総歩行距離に対する割合は 4.1%	2°　25’
㈢区間	高知県長岡郡本山町本山～ 同本山町川口	約 12.5km	『横一（よこいち）』総歩行距離に対する割合は 3.9%	3°　52’
図(表)―32				

６.御朱印

この度はお寺（霊場）巡りでもなく、自宅スタート時は御朱印を頂戴することは考えていませんでした。しかし、１日目いよいよ本番スタートを切り、石鎚神社口の宮（本社）までの歩く道中あれこれ考える中で、石鎚山山頂には神社があること、山麓にはその本社があることが浮かび、着用していた白衣（以前の四国へんろで使用）に頂戴することにしました。ただし、今回は最小限に絞って、他に剣山においても頂戴することとし割り付けを考えました。

結果は図－33 のとおりです、それを活字化したものは、両肩面御朱印―――肩部に朱印を貰う時は白衣を広げて頂いた。―――は図－34、前面御朱印は図－35、背面御朱印は図－36 のとおりです。いずれも「南無大師遍照金剛」はお大師様を囲むように配置しました。

背面の（上桜田）月山神社、菩提寺の石行寺、お隣の佐藤和夫・榮子さんご夫妻はいずれも吾が地元の社寺に係るご縁の深い所であり、帰宅後、報告・お礼参りということで参拝し、サインおよび御朱印を頂戴したものです。なお、白衣前面下部に書いた戒名（法名）は、私の亡くなった家族です、あの世からこの世に連れ出し同行しているとの思いを具象化したものであり、事前に自宅で書いたものです。

月山国鉄山
大和
鉄神社
令和元年十一月二日
誠覚剛信士
(亡弟)
芳春富耀大姉
(亡母)
拓源力斗篤農
居士(亡父)
初陽成満信士
(亡義父)
花顔小雪信女
(亡義母)

図―33

上櫻田
月山神社
南無大師遍照金剛
宮司瀧本光彦
令和元年十一月七日
同行二人
滝山村(現上櫻田)
弘法大師ゆかり霊場
八十五番 栗寺
佐藤和夫 葉子
令和元年十一月七日
奉持 令和元年十一月七日
願主念

（肩面）

（　社本　社神鎚石　）肩　左

右　肩（　石鎚神社　頂上社　）

【石鎚山麓】

令和元年十月十五日

霊峰石鎚山

石鎚神社

口之宮本社

【石鎚山山頂】

令和元年十月十六日

霊峰石鎚山

石鎚神社

奥宮頂上社

図―34

（前面）

（　社上頂　社神鎚石　）肩　右

左　肩（　石鎚神社　本社　）

【剣山山麓】

大剣座

剣　神　社

令和元年十一月二日

【剣山山頂】

剣山本宮

宝　蔵　石　神　社

令和元年十一月二日

・誠覚日剛信士（亡弟）

・芳春富耀大姉（亡母）

・拓源力斗篤農

居士（亡父）

・初陽成満信士（亡義父）

・花顔妙雪信女（亡義母）

<亡くなった家族の法名・戒名／私が書いた文字>
自宅を発った時はこの戒名のみであった。

図―35

（背面）

（　社本　社神鎚石　）肩左

右肩（　石鎚神社　頂上社　）

【吾が地元村社】

上桜田

月山神社

宮司　瀧本光彦

令和元年十一月七日

【私のお隣さん】

滝山村（現上桜田）

弘法大師八十八ケ所霊場

八十五番　八栗寺

佐藤和夫・榮子

令和元年十一月七日

【吾が地元の菩提寺】

須常念

石行寺

令和元年十一月七日

図―36

７．本件を通しての学びと雑感

（１）自己責任と危険予知

その１；登山用地図に記載されているいわゆる登山道については、総じて危険！という個所は見当たりませんでした。ところが、特に「歴史の道百選」に選定されている「旧土佐北街道」の道の整備についてです、私は問題視する点があります。道の下刈り等の整備には多少はあれ何がしかの公金が投入されているはずです、はずというのは、吾が地元は山形県内の登山道・歴史の道の整備について山形県・山形市の関係部門に直接問い質したことがあり、主要道については、最低年１回下刈り程度は行えるような助成金を地元に投下しているということです。原資は環境省あるいは国交省からの補助金とのことです。よって、四国４県内においても同様のはずです。問題はその公金を現場できちんと下刈りに使わずに横領している？　飲み食いに消えている可能性？大なのです、そこを裏容認している（つるんでいる）役所側の不作為、そこが大問題です。

その２；国土地理院地形図に道として表示されているからには、現時どのような状況にあろうとも間違いなく人が歩いて来た道なのです。今現地は廃道になっていても地形図は速やかに訂正されることとは到底有り得ません。目標点に達するためにどのようなルートを選択するのか、どんな装備をするのかは個人の自由でありますから現地が荒れていようと、消滅していようと、どのような状況になっていようとも、私はまったく問題にすることはありません。私は危険承知の上で山々に立ち入ることは、全て 100％自己責任であると自覚しています。リスクを全て負うということです、当たり前です。「歴史の道百選」に選定されているから誰でもが歩けるようにきちんと整備して置け、などという言いがかり的な要求は微塵もしませんが人生も 100％自己責任です。対極に位置する社会のセーフティーネットについては色々と意見はありますが、ここでは記述しないことにします。

その３；前記その１とその２の言い方に矛盾があるのではないのか？となります。矛盾ではありません、私は自己責任の観点からは文句を付けません、しかし、下刈等の整備に係る補助金を得ているならば確実に実施せよということです。公金（税金）を入手したものは対価の業務を忠実に完全履行する責任と義務があります、しなければ犯罪です。

その４；これまでの歩行スルーハイクにおいて、メインルートに「通行止め・通行禁止」と掲示されている場所（10 個所近く）を全て突破して来たが、命の危険を感じた所は１個所もありませんでした。現地は既に多くの人が歩いている状態で迂回路が既に出来ていているのです、要は道の管理に係っている人達の怠慢と自己保身の責任回避から、いとも簡単に「禁止」札を立てるのです。

その理由は、
- ・枯れ枝の落下リスク
- ・岩石の落下リスク
- ・土砂崩れリスク

を挙げています。こんなことを言えば、登山は全て禁止となります。通行止めになったルートに敢えて入ってみると、石畳や石碑や仏像が佇んでおり、歴史的文化財が放置されていることが多々ありました。

表示したいのならば「自己責任」の立て札が最適なのです。

前半では不整備は問題だと言い、後半では不整備を問題視せず自己責任なのだとの主張は矛盾すると見えるでしょう。私が問題視するのは降下（配分）された公金の使途内訳についてであります。

その５；世の中、登山道におけるリスクよりも、図－37（数多の通り魔事件もある）のとおりのもっと重大な事案が個人の意図とは関わりなく、不慮の事故、災難となって降って来ます。生きていること自体があらゆる危険と隣り合わせです。

さて、現地において未経験の障害が眼前に現れた時、自己責任とは何ぞや、ということになります、文

図―37

字のとおりですが、敢えて「危険予知力」と言います、それを突破するためにはどうするか、現地において、このルートにはこの危険が潜む、この方法にはこのような危険が孕(はら)むという危険・リスクを察知し、回避策・対応策がぱっと浮かぶかどうか、直観の有りや否やに掛かっています。それは突然閃くものではありません、日常生活の中でどのような意識・考え方・感覚で過しているかによって培われる感性です。無意識層に沈殿している神様がパッと出現するのです。我欲の強い人には神様は見通す力（洞察力・察知力）を与えてくれません。見えざる空間に陰徳陽報の原理が流れており、日常において陰徳を為す人・こつこつと努力を惜しまない人には咄嗟の時に陽報が注がれます。もちろん、障壁を目の前にして、おじけづき、突破せず、リスクに挑戦せずに引き返すというのも選択肢の一つですが、それを“弱虫、泣き虫”と言います、そうならば、最初からやらない方がずっと賢いというものです。

その６；今回の私のような企図のもとに歩き旅を行っている人とは、一人とも会いませんでした。また、徒歩巡礼者の遍路とも殆ど会いませんでした、今回は霊場の寺院参拝でないこと、遍路ルートとは殆ど重ならなかったことからすれば当然のことでした。

（２）「　冠カップ・メトロノーム作造大作戦　」の成功と心の検証

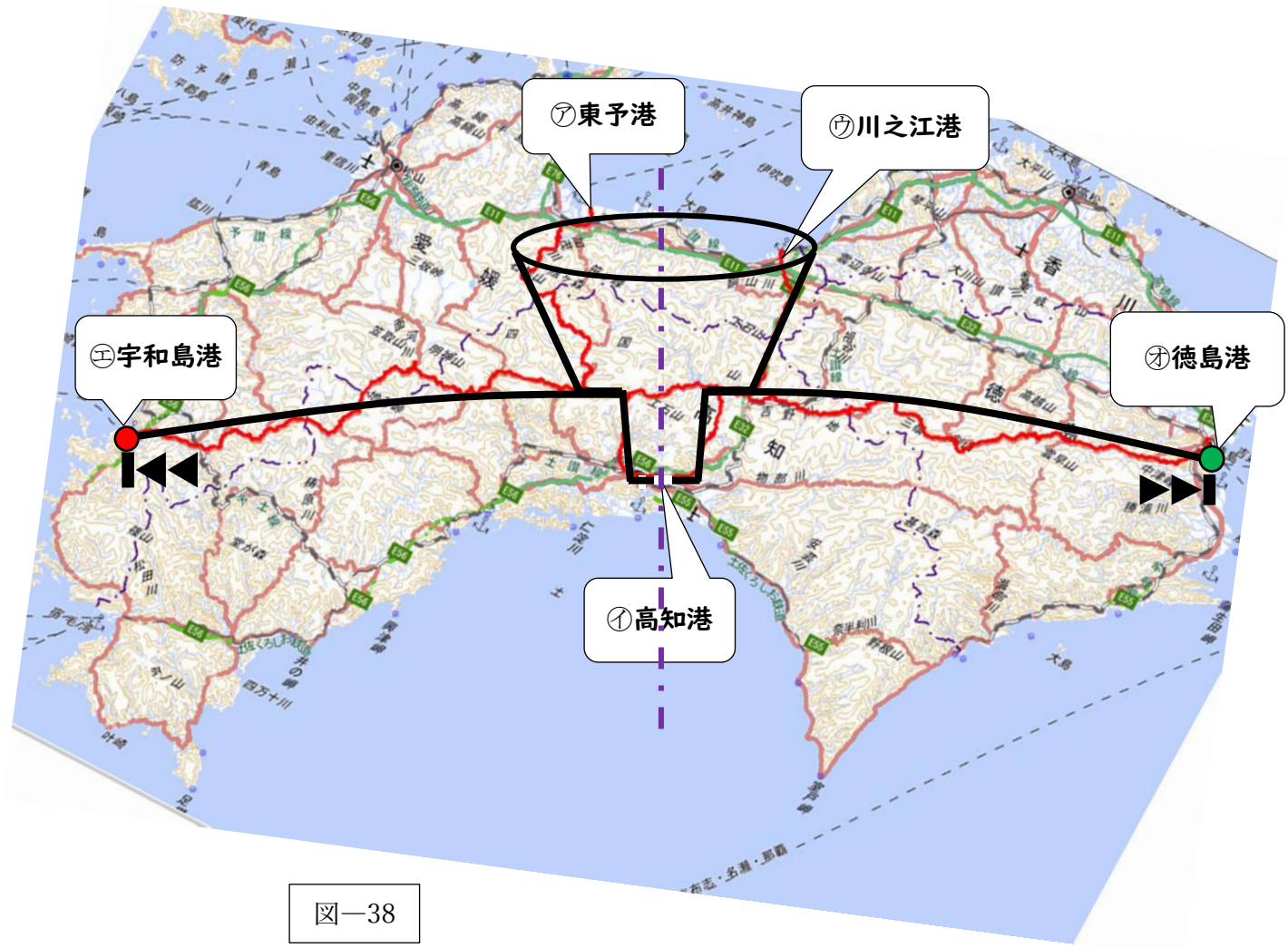
ついに計画のとおり、次頁図－38のように「大香(だいこう)ブランド老魂(ろうこん)サブタイトル」に掲げた「　冠カップ・メトロノーム作造大作戦　」は成功しました。このタイトルに託し、学んだことは、私の精神の有り様、実相、教訓・自戒を込めた反省などと大いに関係します、宿で浮かんで来た「もの・こと」、あるいは歩きながら止めどもなく浮かんで来た雑念を纏めて整理したのが本書です。

さて、この軌跡図の一部「穴開きカップ」には計画時点では私自身を重ねていました、上方の開口部と底部の穴は私の口と肛門でした。実践を踏まえてもっと広く捉えることにしました。カップ上方は（天）を向いて開いています、天からの贈り物・滴(したた)りを受け取る壺・器・受け皿ですが、他方、底穴は漏らす・漏れる・流通（ながれ）の下向きにも繋がり滞留しない入れ物、固執・固着を嫌う入れ物であります。このカップの意義付けについての事由を以下に記述します。

以下は私の頭の中で、トポロジー化・デフォルメ（誇張、強調して簡略化・省略化）思考の中で書いており分かり難い点があると思います。

ａ．無縫自(むほうじ)とア縫自(ほうじ)の両極性

＊1＝モデルＭさん；本来は自由の境地にあり、「心・言・行」はその極自由の中で、いかなるTPO――時（time)、所（place)、場合（occasion）　においても最適・最善の対応が自励発動（内発）されます。



図―38

私は、その状態・様相を、自分を縫っていない―――裁縫（裁断縫製）していない、縛っていない『無縫自』と称しています。

＊2＝モデルＮさん；自分が植え込んだ、自分に溜め込んだ既成概念を“信念”とする法則を以って、宿便状態にあり、“自由”という至福を100％与えられて生まれて来たのに、自分が自分の自由を擦り減らして不自由になって、いい歳になっても自縄自縛で苦しんでいます、いわゆる因循姑息な権威主義者に成り下がっています。

私は、その状態・様相を、自分が入る袋を作るために、自らの布を裁断縫製し、その中に自ら入って不自由になっていることから、「檻籠（おりごも）り、桎梏（しっこく）（足かせ手かせ）状の『ア縫自（ほうじ）』」と称しています。一般的に称される自縄自縛の私流（私的流儀の）解釈です。これを別称「ネット包囲リング内１人相撲で勝ち誇るアホウドリ」「ア縫自（ほうじ）野郎」とも称しています。

ｂ．メトロノームの左右ストッパーへの配当

両極に位置する『(前)無縫自（むほうじ）』と『(後)ア縫自（ほうじ）』を、GPS軌跡メトロノームの左右ストッパー（重り）に配当しています。私の人間性はこの両方の「左右両極同居（どうご）」です、左右に揺れるメトロは、私の心そのもので、その対極間で行ったり来たりのシーソー・フラフラ状態です。

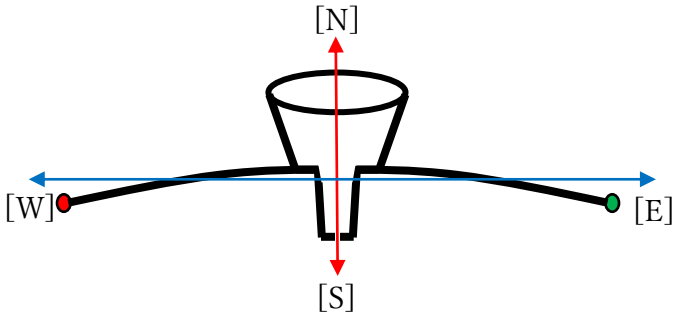
モデルＮさんの人格構造は次のように変転します。日々の心・言・行は習慣化します　⇒　習慣は性格になります　⇒　性格は無意識層に沈殿します　⇒　沈殿したものは残滓（ざんし）滞留物・宿便化します　⇒　宿便を固い崇高な信念と幻覚・倒覚します　⇒　幻覚が日常化・正常化します　⇒　日常を織り為す正常な

心・言・行が倒覚し習慣化します。　⇒　倒錯した心・言・行が習慣化します。戻ってこのサイクルを構成します、無限地獄のスパイルに堕落します、つまり、「ア縫(ほう)自」に化けるのです、本人はいちいち意識するものではありません。モデルＭさんは、まったく正反対の好循環に入ります。しかし、Ｍさんとていつでもモデル Ｎさんに転落しかねない瀬戸際にあります。そう称する私自身がＮさんの身、アホウドリです、穴があれば入りたい、恥を知れ！・・・。私は、今はＭさんを目指して、この瞬間もあがいています。あるいは行ったり来たりしてもがいています。

「ア縫(ほう)自」状が岩盤状に固定化することが大問題です。左右両極を自由往来出来る柔軟性、広遠性こそが望ましく、その正常な好循環を促すためには、「独り立ち・一人時間」を大切に、内省する、内面陶冶の時間を最良とし、その中で歴史上の大人物、聖賢・先哲の書の「清く、明るく、正しく、まっすぐ、美しく・きれい」な話に触れ、誠実な人と交流することです、努めています。

ｃ．南北軸と東西軸

図－39 の「冠カップ・メトロノーム」は、縦Ｖの南北軸と横一の東西軸の指向性を内包しています。南北上下に振動し、東西左右に揺れて、往来激しく、時には緩やかに、自由自在に好きなように行動せよという天からのプレゼントを頂戴したものです。何かに付けてクロス（＋、×）の視点が大好きです。



図―39

（３）本件で生まれた詩

毎日歩くことが仕事で移動すると、六根・六境・六識が刺激されて様々な雑念・妄想が横切ります。その時々に思い浮かんだ言葉を IC（ボイス）レコーダーにランダムに吹き込み（入力し）、宿で短歌や詩に整理して遊んでいます。短歌あるいは俳句の文語文法を格別勉強した訳ではなく、また、花鳥風月の風流を、わび・さびを詠える、季語を織り込むような才能はなく、現代用語・しゃべり言葉を並べただけの味気ないもので、まったくの我流だが、あれこれと浮かんで来たものの一部を整理しています。

以下は７・７調です。

右往左往と動きの中に、サスティナブルの萌芽の兆し
吾が人生の壮大ドラマ！　メトロノームのリズムを刻む
蟻・亀・蝶の耳目(じもく)の力！　貴方(あなた)を求め何かを探す
夢と希望を叶える力(りき)は、内なる童(わらべ)の無邪気な心
タマリを廻(めぐ)る表の心　静かに眠る裏の魂　（タマリ＝群れ、裏＝人間の醜い鬼心）
一人(ひとり)時間の独立独歩　きっと栄ゆる私の命
私の弱みはあなたの強さ　私の強みはあなたの弱さ
私の短所はあなたの長所　私の長所はあなたの短所

以下は７・５調です。

俺に似合いのステージで　あなたが似合うステージで
お互い違うステージで　お互い好きなステージで
あなたはバラか素敵だね　私は草か蝶々か

比べることに意味はなく　そこに勝ち負けなどはない
私が見せる演目は　あなたと真逆の黒子です
黒子あっての主役あり　黒子なくして主役なし
みなが背負った宝物　得意の技で披露する
精一杯の体当たり　拍手喝采鳴りやまぬ

以下は三十一文字です。
この歳の馬力生み出すキャンバスに　大きな夢を大きく描く
山間の小さな宿で語り合う　過去から今に未来へ繋ぐ

（４）雑感

その１；定年退職の翌年から始めたスルーハイク歩き旅に、その他旅行等を加えると、この 10 年間に 500 個所以上の宿にお世話になり、多くの様々な人達との交流を図らせて貰いました。

私の会社員現役時代（同一民間企業に 41 長勤務）を通して、さらに定年退職後は地域コミュニティの人達との新しいお付き合いが沢山ありました。宿の人達（かれら）は吾が地元の人達（これら）とはどこかが違います、後者これらはとにかく我欲が強い、損得勘定の牙を研いでいるヤツが多い、自己主張が強く視野が狭量、虎の威を借る狐と成り下がり威張る、他人の悪口・影口三昧を得意とする・・・、しかし、前者かれらはそんなことを微塵も感じさせません。話題は豊富で内容は奥深い、他人を慮る慈愛はとても濃厚です、こう言うと接客業だから当たり前だろうという根性の曲がった人が表れますが、そうではありません、表層的な接客ではすぐにバレますが、―――事務的なビジネンホテルのフロントマンに多い――個人経営の民宿や家族経営の旅館の人達は、十人十色の色々な人達（我儘な客）と接する中で、物事を前向きに捉え、謙虚に学ぶ姿勢があるからこその本当のやさしさが生まれるものだと思います。物事に対するマイナス思考・ネガティブな人と会った記憶はありません。思考が柔軟です、万事に肯定的な姿勢です。とにかく、皆挑戦的で人生観が幅広い人達です、素晴らしい人達でした、私は皆様の人間性や見識から多くを学ばせて貰いました、ご縁を賜りありがとうございました。世の中には多種多様な仕事・商売があります、「職業に貴賤無し」ですが、「人に直接接して寝泊りのサービスを提供する仕事」は一番難しいのではないかと思っています、なぜならば、この世の生物の中で人間が一番高等かつややこしいからです。「知行合一」を説く王陽明は「山中の賊を破るは易く、心中の賊を破るは難し」と喝破されています。その意は―――山中に立て籠もっている賊を討伐するのはやさしいが、心の中に巣窟（そうくつ）の邪念に打ち勝つことは難しい。自分の心を律することは一番困難であるという譬えです。接客はこのような人間を相手にして、その相手に心からのおもてなしを施し、お接待・安らぎを提供する仕事です、同じ心の山賊を抱く人間としては、こちら側の自分が自分の心の徹底した統御なくして成り立ちません。いわば、寛容と度量、深い洞察心無くしてうまく対応出来ません。このような接客業の中で心を磨いた人達と接すると、人様に授かる無償の愛の尊さというものをしみじみと感じることが出来ます。

その２；今回は、念願でありました四国内（西日本）の標高第１位の石鎚山Ⓐ、第２位の剣山Ⓓに上り、さらに江戸時代は土佐藩主の参勤交代の道とした整備した旧土地北街道Ⓑの踏査、日本３大カルスト台地Ⓒの中でも最も高い四国カルスト台地への踏み入れを実現出来たことは率直に嬉しく思っています。想定外のことも立ちはだかりましたが、中途断念の心はまったくありませんでしたか、心が萎えないのです、不思議です。障壁が表れると何とかしよう、これを突破するにはどうすれば良いのか、ただただ、前進を図るための方策に集中する自分がありました。こんな時浮かんで来る孟子の言葉があります。「孟子（明治書

院)」より抜粋します。「天のまさに大任をこの人に降(くだ)さんとするや、必ずまずその心志(しんし)を苦しめ、その筋骨を労せしめ、その体膚(たいふ)を餓(う)えしめ、その身を空乏(くうぼう)にし、行うところ、その為さんとするところを払乱(ふつらん)せしむ。心を動かし、性を忍ばせ、その能(よ)くせざるところを曽益(そうえき)せしむる所以(ゆえん)なり。」――天がこの人に重大なる任務を与えようとする時は、必ず、まずその人の精神（心や志）を苦しませ、その筋骨を疲れるほど働かせ、その一身を窮乏にさせ、そのすること為すことがそのしようとすると意図と食い違うような苦境に立たせる。それは、天がその人のこころを鍛え発奮させ、その人の本性を忍耐強いものにし、その結果、今まで能くすることの出来なかったことを成し得るように、その人の能力を増大させ、そして大任を負わせるに足る人物に育てようとしているからである。――

眼前に未経験の難題が表れると必ずやその孟子の言葉が浮かびます。そもそも今回の計画は、今回のみならず過去 10 年間のスルーハイク全ては、誰からも指示されたものではなく、自分自身が自発的に計画し実行に移したものです。他人から見て馬鹿らしいことも自身の内発に従順になった行動は、楽しくて楽しく苦労などという言葉は微塵も絡みません。途中放棄は自分の決心に自身が裏切ることになります。現地は日常を離れた異次元世界です、何が起こるかまったく予想が付きません。私は「計画は綿密に、行動は人事を尽くして天命を待つ、後は野となれ山となれ。」いわば知行合一の性格の方です。

その３；眼前の障害に当たって浮かぶもう一つの思いがあります。「出来ない、無理だ、やったことがない」の否定発言、３大ネガティブ発声です、私は人生の中で、他人に対し怒り心頭になることは余りない方だと思っていますが、この言葉が発せられると、場や相手を構わずに発火することがあります、“何だ、その消極的な逃避態度は、馬鹿者！”と怒鳴りつけてしまいます、悪い性格です。

ここで、Ｊリーグ初代チェアマン川淵三郎が話された大好きな名言が浮かびました。

・・・・・・・・・・・・・

◎1 「時期尚早」という人間は 100 年経っても時期尚早という。

◎2 「前例がない」という人間は 200 年経っても前例がないという

✓1 したり顔で「時期尚早」と言う人は、やる気がないということ。それを正直に「私にはやる気がありません」とは情けなくて言えないから、「時期尚早」という言葉でごまかそうとします。

✓2 「前例がない」と言う人は、「私にはアイデアがありません」と言えないから、「前例がない」という言葉で逃げようとします。

これは仕事の出来ない人に共通している逃げ口上です。出来ない理由を探して、安穏とする。

・・・・・・・・・・・・・

そのような何事にも消極的な人は困るが、反対に、何事も公私混同、恣意的でルール無視の暴走気味の人も困ります。世の中「２対６対２の自然法則」のとおり、できる人（世にいう利口者）２割、できない人（世にいう馬鹿者）２割がどこにもおります。そして、中間の可もなく不可もなくどっちつかずは６割です。41 年超の会社現役時代や退職してから今日までの地域コミュニティを振り返ると、何とか会（諸々のタマリ・群れ・グループ）の長の中にも、そのような「ア縫自(ほうじ)」言葉を吐く人がしっかり蔓延っています、いました。

その４；　今回のスルーハイク旅は、海岸沿いにある都市以外は、ルートは山々に囲まれ、川・河に沿った谷合いであるが故に、毎日が、好き勝手な動きをする雲の流れを見て、声も出さずに動かざる山の佇まいでありながらも枝が擦れて呻(うめ)き、林の中では鳥獣が姿を見せずに鳴いたりガサガサと騒がしく、水

は障害物を上手に交わしながらも時には怒った印の白波を立て、・・・　毎日がこのような環境に囲まれます、自然との一人言(ごと)対話が毎日でした。V字・U字・VU字渓谷に張り付く人家・集落は「旧塩の道」スルーハイク時の信州を思い出しました。

私の呼吸と自然の呼吸の一体感がありました。自然（木樹(きぎ)・植物）は、私が吐いた二酸化炭素を貰い酸素を掃き出し、逆に、私はその酸素を貰い二酸化炭素を掃き出し、補完し合う循環の素晴らしさを感じながら歩きました。次の［A・B］化学式は単純なモデルです。さらに簡素化したのが［C］です。

$6CO_2$　＋　$6H_2O$　⇄　$6O_2$　＋　$C_6H_{12}O_6$　［A］（光合成）（二酸化炭素）　（水）　（酸素）　（ブドウ糖）　［B］（呼吸）

CO_2　＋　$\underline{H_2O}$　⇄　O_2　＋　$C\underline{H_2O}$(有機物)　［C］

［A］式は、自然界（植物）の光合成による化学反応です。空気中の二酸化炭素と根から吸収した水が反応し、酸素とエネル源を排出します。エネル源ブドウ糖の水素原子 H_{12} は全部水に由来します。

［B］式は、上と逆の式です、人間の呼吸による化学反応です。吸った酸素は、体内に摂取した栄養のエネル源ブドウ糖と反応し、二酸化炭素と水を排出します。真水をがぶがぶ飲まなくても炭水化物（ブドウ糖等）さえ取っていれば体内で水が生成されるのです。排出される水の水素原子 $6H_2$ は全部ブドウ糖に由来します。

人間にとって不要物の二酸化炭素が水と絡むと、今度は反転し、欠かせない酸素とブドウ糖（エネル源）に転換し、植物にとって不要物の酸素がブドウ糖と絡むと、今度は反転し、欠かせない二酸化炭素と水に転換します。私が背負った水 H_2O が共通的に係っています。たった3つの元素（炭素C、水素H、酸素O）が自然界と人間の生命維持のやりとりをサポートしているのです、「Simple is best」なんてきれいなのでしょう、変化・恒常性・相乗効果などの響きが伝わって来ます。往来・循環・振動というきれいな対称性（リズム感）をも読み取れます。

その５；今回もそうですが、旅先でよく聞かれるのが、「奥さんは何か言わないですか？」です。そんな時次のようなことを話します。

『　・・・お互いに余命僅かの人生において、夫婦は相互にその生き方を最大限尊重し合うことが大事だと思う、生き方、考え方に干渉しないことにしています。家庭の運営・維持のための意志疎通を良く図り、情報共有はきちんと行うが、それぞれの私的な行動パターンや性格には否定的な口出しはしないこと、否定的に介入しないこと、ただし、こうするともっと良くなるよ！とか、こうするともっと楽しくなるよ、というような有用なアドバイスはお互い様とする、要は、アドバイスを装って、相手の行動を監視しない、相手の自由を規制・制限しないことにしています。そんなことから、妻は地域コミュニティの諸活動に積極的に係り、趣味などのサークルにも入会し、日常平時は私よりも活動的です。以前は、一挙手一投足のしぐさや所作が、癖が気になって、口論・やり合いしたものですが、還暦を過ぎたら、それは、個性というもの、他人がとやかく叱咤して簡単に修正転向するものではないということに気付きました。

「二つで一つ、一つは二つ！」です、日中は廊下を挟んで向かい合う部屋（部屋の入口戸は開放）にいますが、夜は二つ並べたベッドで就寝です。相互不可侵、相互尊重の関係です。したがって、私の旅には否定的な口出しは一切しません、むしろ“行けや　行って来い”と応援してくれます。　たとえ“行くな”と否定されたとしても、承服せず“私は旅に出る”と言うでしょう・・・』

その６；地域コミュニティのこと２題です。

❑1；歩き旅のことは、地元の知人・友人には前後において一切教えません、妻にも“どこどこへ行った

と言うことは一切他言無用”と、かん口令を敷きます。なぜならば、人は、ねたみ・ひがみ・しっとからあらぬことを塗り立てて吹聴するからです。私はこの歳になって、他人からの是非・善悪・嫌悪・賛否の感情評価は一切欲しくはありません。共有とか共感とか格別の絆というものを求めません、そもそも「ムレ・グル・集のタマリ」には本物の共感とか絆は生じません。そのような美名には、おせじ・打算・策略・ペテン・騙し・下心・嘘・損得勘定・計算などが隠されています。「絆」という美名は、求めるものではなく結果して気付いたらそうなっていたというものです、そのようなことが分かっている人間とだけの対人関係でよい、と思って満足しています。

❑2；地域コミュニティにおける本物の絆の醸成は、難しい言葉の羅列ではなく、私の実践は次のとおりです。自宅の周囲は、新興住宅街で30代から40代前後の子育て中の若い人達です、小さな子供達をも含めて出会った時は積極的に声をかけて挨拶しています、お子様で私を知らない人はいないはずです、うぬぼれ屋の阿保！

絆とは、と論ずる事に意味はなく　日々の挨拶続ける力
本物の絆の中身を開け見れば　一人びとりが輝くダイヤ
「防災」を安く仕立てる要諦は　お隣皆との日常会話
揺るぎなき契りを結ぶその基は　一番身近なお隣近所
本番で力が湧き出るその技は　日々に普通の笑みと声掛け
皆々が平らけくこそ集い来る　町内会は絆の保険

その７；自身の性格が気になります、気になるとは他人と比較して落ち込む・悩むことではありません。自身は分別知という罠に嵌まっているのではないか、自身の狭い視野は、無限大であるもの・ことから切り出した断片に過ぎないのではないのか、という疑問が湧いて来るのです。私の日常の心模様は、具象的実体を追い求め、捕まえたら執着して、今度は好き嫌いで分断し、そして嫌いな面は切り捨てます。また、心温まる報道に接し無性に涙が出ることもあります。そのような蠢きの中、禅でいう差別相と平等相のあり様をも自覚するようになりました。このような繰り返しですが、どこか満足しない虚無感に苛まれる時もあります。そして、陰陽二元のせめぎ合いから心が右往左往し、喜怒哀楽の感情起伏が強弱乱高下し、イライラする状況を反省しています。私に内在する(前者)陽根は、分化発展作用の分別知、「差別」という世界を希求し、積極性が展開されます。他方で即応性はあるが枝葉末節化し支離滅裂のきらいがあります。私に内在する(後者)陰根は、求一還元作用の無分別智、「平等」という世界を希求し、統一含蓄の安寧・安心が展開されます。他方で落ち着きは消極性に陥るきらいがあります。

その両面の不離一体を思う時、何か私が追い付けない、手の届かない処にあろう抽象的・普遍的な真実（真理）というものに一度はお目にかかりたい、感得したいという気持ちにもなります。私には魔性と仏性が同居しています、「仏魔同居」は善い悪いというものではありません、必要不可欠として求め合う関係にあります、相思相愛なのです。上記前者は魔性、後者は仏性の働きと交錯しているのを自覚します。人間誰にでも、大小・強弱などの濃淡はあれ、艱難辛苦が纏わり付いて離れません、他人様の生き方は自由勝手であり一言もけちを付けません。もちろん私にも多難が降って来ますが、対人関係においては虎の威を借る狐になること、長いものには巻かれろ式になることだけは、自己喪失、墓穴を掘るに繋がると思っ

ていますから、そのようなことには決して組みしないことにしています。

死ぬまで心の改造をしたいのです、「想像は創造する」「思考は現実化する」と言われます、人生における様々な思いをイメージし、浮かぶビジョンをデザインして行くプロセスを楽しんでいると、必ずや実現へと誘われます、これを信じて日々を暮らしたいと念じています。

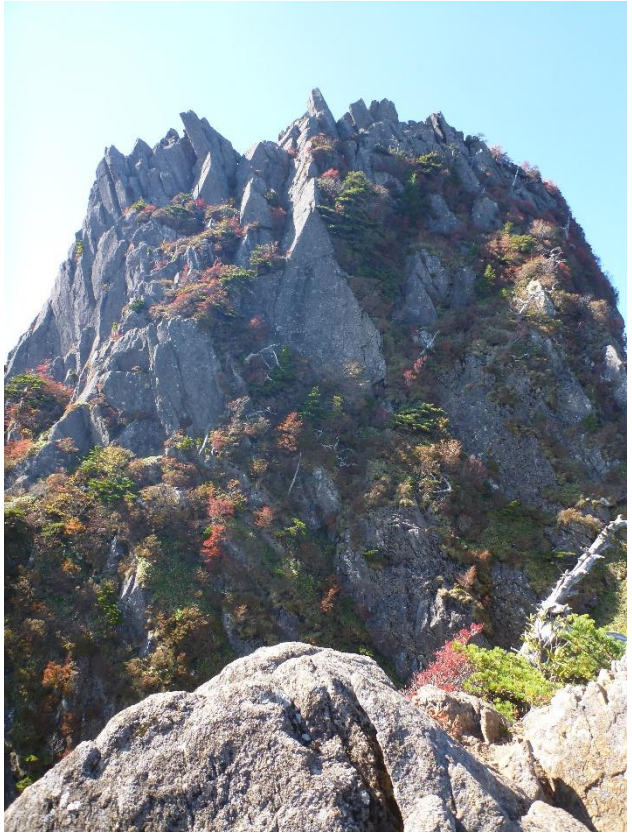
いずれにしても、この世の人間の性格も、「もの・こと」も、全ての事象は「陰中陽あり、陽中陰あり、陰陽同居（どうご）、仏魔同居（どうご）」です。この世で一番ややこしい対人関係にあっては、このような違いの同居を認識できて、『囲み囲まれは無し、囲ま無い！』の対等互敬（恵）の分かる人だけを求めて楽しく生きて行きたいものです。

8．ピックアップ写真

㋐～㋒；石鎚神社成就社

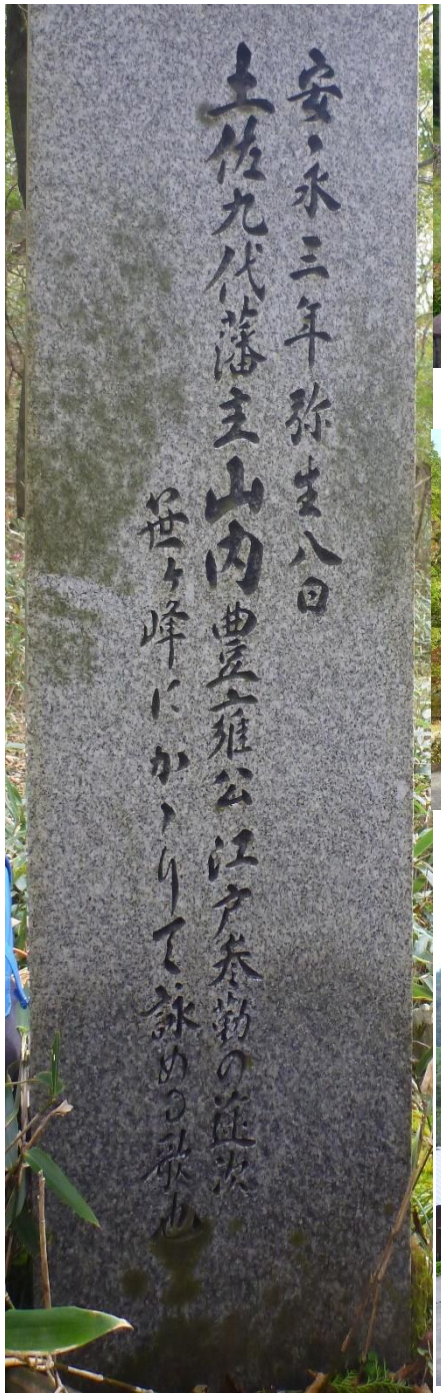
㋓；石鎚山最高峰天狗岳山頂

㋔～㋖；石鎚神社



下図ⓐ～Ⓒは古道の状況です、潜って通過し来ました。いわゆる「自己責任」の範疇です。

ある自宅の神道方式祭壇


安永三年弥生八日
土佐九代藩主山内豊雍公江戸参勤の途次
笹ヶ峰にかゝりて詠める歌也

参勤交代北山道
北山越えの道
南国市長 森田純一 書

北山越え

全面通行止
除草中
全面通行止

石槌神社

Welcome
グッド・ライター
ドライバー
準備中

《 お わ り に 》

脊柱管狭窄症を患う老体はガタガタ・ギシギシ、人生は細く長く？　太く短く？　欲張って太く長く？　結末は予測が出来ません。対人関係にあっては「真・善・美」の理想を語れる人を乞い求め、吾にあっては極自由の世界は独立独歩の中で、のんびりと急がず、しかし、全力を出し切って、全力を絞り出して、思い残す処無く楽しんであの世に逝きたいものです、、、

“　自分の頭が固い、発想が貧弱、何とかしたい！　”　知識はもういらない、頭の中にたくさんの自由が欲しい、100%の自由を以って思い通りに過ごし、納得の行く人生の帰結を迎えたいと思っています。どこまでも freedom、いつでも Flexibility、自分の心にああだこうだと仕切りを入れないこと、境界線を引かないことを意識して生きたいと念じています。

日本のロックバンド「THE ALFEE（ジ・アルフィー）」の歌「今日のつづきが未来（あす）になる」（作詞・作曲；高見沢俊彦）が大好きです。その歌詞の中の特に「・・・人生に勝ち負けなどない　どれだけ自由に生きたのか・・・」のフレーズがとてもいいですね、まったく同感です。

自分の心が、何事につけ、どちらか一方の見方に偏って執着し離れないことを最も恐れています。

さて、71 歳以降の今後の余生をどのように楽しむのか、これまでの 10 年間の延長として、さらなる歴史街道スルーハイクを続けるのか？　全国一之宮巡りか？　スルーハイクではないが何か目標を決めた国内旅行か？　山形県内百名山の登山か？　それよりも北アルプス・中央アルプス・南アルプスのピークハント＆縦走の登山もやりたい！　　高校数学の再勉強でもするか？　その他、吾が身の低能・体（てい）たらくを顧みず現実離れのことも浮かんで来ます。これから冬に入るので、吾が身の冬眠中に悔いのない余生の人生設計を錬成したく思っています。

（完）

2019（平成 31⇒令和元）年 12 月 31 日（火）

山形県山形市上桜田
080-3338-3738
dreamyok@hotmail.co.jp